

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づく

栄町教育委員会の点検・評価報告書

(平成27年度対象)



栄町教育委員会

平成28年11月

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないこととされています。また、第2項では点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとしてされています。

栄町教育委員会では法の趣旨に則し、課題や方向性を明らかにし、より効果的な教育行政の推進のため、学識経験者からの意見を受け報告書にまとめ、町議会に報告するとともに、それを公表し説明責任を果たすものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

栄町教育委員会委員名簿

職 名	氏 名
委 員 長	鈴 木 初 子
委員長職務代理者	野 寺 郁 子
委 員	中 島 宣 行
委 員	大 久 保 雅 従
教 育 長	葉 山 幸 雄

目 次

- 1 点検・評価の対象 P 1
- 2 点検・評価の方法 P 1
- 3 点検・評価の結果 P 1
- 4 点検・評価（施策評価シート）
平成27年度栄町教育方針
基本方針（1）
創意と活力のある教育活動の中で、基礎・基本の習得及び思考力・判断力・表現力の育成、並びに望ましい勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育を充実させ、個性を活かすきめ細かな学校教育を推進します。 P 2～P 11

○学識経験者の意見 P 12
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 17

基本方針（2）
生涯学習とスポーツを通して、心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくとともに、地域の教育力を活かした子どもたちの健全育成を推進します。 P 21～P 24

○学識経験者の意見 P 25
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 27

基本方針（3）
地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財の保護・伝承・活用を図り、個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を図ります。 P 28～P 31

○学識経験者の意見 P 32
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 33
- 5 本町教育行政が取組む方向について P 35

1 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「栄町教育方針」を実現するため、平成27年度の重点的な取組みとして実施した、「教育行政の充実」「学校教育環境の整備」「特色ある学校づくりの支援」「きめ細かな学校教育の推進」「学習環境の充実」「学校給食の充実」「生涯学習環境の充実」「生涯学習資料の充実」「スポーツ振興事業の充実」「文化芸術発信拠点の充実」「歴史資料の公開・活用」「文化財保護の拡充」の12の施策について点検・評価しました。

2 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、教育委員会事務局で作成した「施策評価シート」により自己評価を実施しました。

評価は、施策全体の取り組み状況（達成度）について

⎧	目標を達成	★★★
	目標をほぼ達成	★★
	目標に達成していない	★
	現時点で判定できない	—

の4段階で実績・成果・課題を記述し、評価する方法で行いました。

なお、客観性を一層高めるため、教育に関し学識経験を有する方に取り組み状況を説明し、基本方針ごとの自己評価に対する学識経験者からの意見をいただきました。

ご意見をいただいた方々のお名前は、次のとおりです。

(敬称略)

氏名 長澤 房枝 (元学校長)

氏名 小野 明 (団体役員)

3 点検・評価の結果

施策評価シートにより、点検評価を実施しています。

12施策の結果は次のとおり

《目標に対する達成状況》

目標を達成	★★★	・・・	3施策
目標をほぼ達成	★★	・・・	9施策
目標に達成していない	★	・・・	なし
現時点で判定できない	—	・・・	なし

4 点検・評価（施策評価シート）

基本方針（1）

創意と活力のある教育活動の中で、基礎・基本の習得及び思考力・判断力・表現力の育成、並びに望ましい勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育を充実させ、個性を生かすきめ細かな学校教育を推進します。

【施策名】

- ・ 教育行政の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- ・ 学校教育環境の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
- ・ 特色ある学校づくりの支援・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5～P 6
- ・ きめ細かな学校教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・ P 7～P 8
- ・ 学習環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9～P 10
- ・ 学校給食の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 11

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 12

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・ P 17



施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		教育行政の充実					
現状と課題		平成27年4月の教育委員会制度の抜本的な改正により、町長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、総合教育会議を設置し、①教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策の大綱の策定、②教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策、③児童、生徒の生命又は身体に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置について協議及び事務の調整を行っていくこととなりました。教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図りながら、将来社会自立する子どもたちの「生きる力」をばぐむことを重視し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等のバランスのとれた教育を推進していきます。					
施策の情報整理	目指す成果	教育に関する国等の情報が的確に収集され、迅速に教育委員会に諮り、委員会の意思決定を行うとともに、関係課及び各教育機関が連携し円滑な教育行政が行われている。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成26年度	平成27年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明 教育委員会所管の施策について点検評価を実施した際の達成度(施策全体の目標をほぼ達成した割合)
		教育委員会所管の施策目標の達成度	42% (H25)	100%	100%	100%	
	施策全体の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない ー	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		1,999 千円	
						1,970 千円	
	達成度の理由	教育委員会所管の施策について、点検評価を実施した際の達成度の割合。 (12施策(教育行政の充実を除く)のうち、目標を達成が2施策、ほぼ達成が9施策であった。) 目標を達成が2施策、ほぼ達成が9施策であり、各施策の達成度はほぼ達成したと判断できることから、教育委員会所管の各施策の達成度は「目標をほぼ達成」とした。よって、全12施策中、目標を達成が2施策、目標達成をほぼ達成が10施策となる。 総合的には、点検評価の他、教育委員会会議や総合教育会議を開催し円滑な教育行政を行なえたことから「目標を達成」と判断した。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明						
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	平成27年4月の教育委員会制度の抜本的な改正に基づき、総合教育会議が設置されたことから町長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進していく。						
住民との協働や他課の事業との連携	教育基本法第17条第2項に規定される「地方公共団体が策定する教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付けた、「栄町教育振興基本計画」(平成27年度～平成30年度)に基づき各種施策を推進していく。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成27年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費		
① 教育総務運営事業	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会会議(定例会12回)を開催し、重要事項や基本方針の決定を行い円滑な教育行政が行えた。 教育委員会の施策に対して点検評価を行い目標達成度の検証を行った。 新たに設置された総合教育会議により、町長と教育委員会の相互連携を図り、教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策の大綱(栄町教育大綱)を制定した。 教育委員会規則・訓令の制定、改廃 3件 予算等議決議案を町長に申し出ること 10件 任命・委嘱 6件 その他 17件 委員研修(千教連・印教連開催等) 7回 	【取組への課題】 平成27年4月に教育委員会制度の抜本的な改正が行われ、地方公共団体の長と教育委員会との連携の強化が求められることになったが、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図っていく。	H25 決算	1,886	
				H26 決算	1,970
			【課題を踏まえ今後の対応】 それぞれの事業の効果を検証しながら、子どもたちに寄り添いきめ細やかな教育行政が実施できるよう教育委員会会議で常に協議・検討していく。また、新たに設置された総合教育会議により制定された栄町教育大綱により、町長と教育委員会の相互連携を図り、協議・調整を行いながら、教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策を推進していく。	H27 予算	1,999
				H27 決算	1,873
合計			H25 決算	1,886	
			H26 決算	1,970	
			H27 予算	1,999	
			H27 決算	1,873	

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		学校教育環境の整備					
現状と課題		<p>学校施設は子どもたちの教育を行う場所であるのみならず、地域コミュニティ育成の場や災害時の避難場所としても利用されるものであり、常に安全が確保されているべき場所である。</p> <p>気象変動に伴う夏場の暑さ対策のため小学校への空調機設置について補助要望を行ったが、当初の国庫補助は不採択となったが、その後、国の補正予算により補助採択された。年末であったため平成27年度内での工事が完了できないことから、平成28年度繰越しにより行うこととなった。</p> <p>トイレの洋式化については、平成28年度改修に向け平成27年度は実施設計を行った。</p> <p>いずれの工事も、多額の工事費がかかってしまうため、国の補助制度を有効に活用し整備を行わなければならない。</p>					
施策の情報整理	目指す成果	児童生徒及び教職員がより良い教育環境で学習することができ、安全で安心して学校生活が送れている。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成26年度	平成27年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		教育環境の整備・充実	空調機 1校 トイレ洋式 1校 (H26)	20%	60%	空調機 4校 トイレ洋式 4校	主な環境整備事業 ・空調機 4校 ・トイレ洋式 4校
	施策全体の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) 目標をほぼ達成(80%以上) 目標を達成していない 現時点では判定できない	★★★★ ★★★ ★ —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		488,019 千円 64,350 千円
	達成度の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・栄中学校空調機設置工事、安食台小学校トイレ洋式化改修は大規模改造工事により平成26年度に完了した。 ・平成27年度においては、小学校4校の空調機設置を予定していたが、国の補助採択が年度当初不採択となった。その後、国の第一次補正予算により補助採択されたが、年度末の採択であったことから、平成27年度内では工事が完了できないため、平成28年度繰越しにより行うこととなってしまい、現時点では判定できない。 ・トイレ洋式化の4校においては、平成28年改修予定であることから、平成27年度は実施設計を行った。 ・学校管理運営事業では、栄中学校新館屋上防水改修工事を実施した。 ・総合的には、空調機の次年度繰越し以外は達成しているため「ほぼ達成」と判断した。 					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明						
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	児童・生徒の生活習慣の多様化により、学校トイレを一部和式トイレから洋式トイレに改修する。グラウンドの改修・非構造部材の耐震化を含め、児童・生徒及び教職員がより良い教育環境で学習することができ、安心して学校生活が送れるよう、各学校の実情等を踏まえ学校施設整備計画を策定する。						
住民との協働や他課の事業との連携							

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成27年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 学習環境整備事業	<p>児童生徒及び教職員がより良い学校施設で学習することができ、安心して学校生活が送れるよう各種工事・修繕を行った。</p> <p>【主な工事等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄中学校、安食小学校、布鎌小学校、竜角寺台小学校トイレ洋式化等工事実施設計業務委託 3,348千円 ・栄中学校屋内運動場天井等落下防止対策工事実施設計業務委託 4,320千円 ・安食台小学校、竜角寺台小学校屋内運動場天井等落下防止対策工事実施設計業務委託 5,886千円 ・安食小学校災害復旧工事 297千円 ・竜角寺台小学校災害復旧工事 400千円 	<p>【取組への課題】</p> <p>国の補正予算により採択を受けたため、平成28年度に繰越しとなった小学校空調機設置工事を早期に進める。また、トイレの洋式化についても、実施設計は完了し、平成28年度の国の補助採択を受け整備を実施しなければならない。</p> <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <p>トイレ洋式化についても、小学校空調機設置工事同様に、国の当初の補助採択の動向を見ていく。今後、当初で国の補助採択がなかった場合や年度内での採択が無かった場合、町単独でも工事を実施するか検討が必要となる。</p>	H25 決算	123,897
			H26 決算	275,279
			H27 予算	433,851
			H27 決算	14,251
② 学校管理運営事業	<p>より良い学校生活が送れるよう予算の適正な執行・管理を行った。</p> <p>【主な工事等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄中学校新館屋上防水改修工事 7,911千円 	<p>【取組への課題】</p> <p>各学校の予算については、限られた財源を有効に活用できるようにする。</p> <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <p>より良い学校生活が送れるよう学校の予算を適正に執行・管理する。また、引き続き老朽化した機器の修理等を実施する。</p>	H25 決算	38,419
			H26 決算	38,595
			H27 予算	54,168
			H27 決算	50,099
合 計			H25 決算	162,316
			H26 決算	313,874
			H27 予算	488,019
			H27 決算	64,350

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	特色ある学校づくりの支援						
現状と課題	町の人口減少と共に少子化による児童・生徒数の減少が予測される中、子どもたちへの教育の重要性が増している。学校運営や教育活動においても学校と地域が一体となって教育を推進していく必要がある。						
施策の情報整理	目指す成果	小中学校ごとに望ましい学校教育のあり方を追求し、保護者や地域住民が参加した「特色ある学校づくり」を推進している。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成26年度	平成27年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		学校評価における保護者アンケート	93.8% (H25)	95%	95%	95%	
	達成度の理由	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		27,441 千円 24,034 千円
	達成度の理由	・小・中学校再編事業は円滑に終了し、安食台小学校、栄中学校共に学校運営は円滑におこなわれている。また、スクールバスについても適正且つ安全に運行されており、児童生徒の通学時の安全は確保されている。 ・学校は学校評議員を通じて、地域住民の意向を反映した開かれた学校づくりを実践している。 以上により、施策全体の目指す成果に対する達成度はほぼ達成していると言える。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	統合により学校規模が適正になったことから、それぞれの特色を生かした学校づくりが進んでいる。					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・統合に係る児童生徒の心のケア ・PTA組織の再編、北辺田小学区、酒直小学区、栄東中学区の各地域におけるふれあい推進員を含めた地域の活動力の維持					
住民との協働や他課の事業との連携	・竜角寺台小、安食小、安食台小において、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育む体制づくりの実現に向けて、学校と地域の連携を図り、学校教育を支援する仕組みづくりを進めることができた。 ・通学路の危険個所の確認を、建設課と共同して行った。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成27年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 通学安全対策事業	・統合により遠距離の通学となった児童生徒が安全に通学できるよう、スクールバスの運行をおこなった。 小中共に登下校時2便の運行 安食台小学校 旧北辺田小学校区:マイクロバス 旧酒直小学校区:中型バス 栄中学校 旧竜角寺台小学校区:大型バス、マイクロバス 旧酒直小学校区:中型バス ・運行はシルバー人材センターに委託	【取組への課題】 ・スクールバスの安全運行を確保する。	H25 決算	228
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・スクールバスの安全運行については、教育委員会、学校、シルバー人材センターが連絡調整を密にし、TPOに応じて運行時間の変更、運行ルートの精査等を実施し、適正且つ安全な運行をおこなっていく。 また、通学路の安全を確保するため、バス運行の視点も加味した通学路点検を実施し、危険個所について安全対策を講じていく。	H26 決算	12,983
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・スクールバスの安全運行については、教育委員会、学校、シルバー人材センターが連絡調整を密にし、TPOに応じて運行時間の変更、運行ルートの精査等を実施し、適正且つ安全な運行をおこなっていく。 また、通学路の安全を確保するため、バス運行の視点も加味した通学路点検を実施し、危険個所について安全対策を講じていく。	H27 予算	14,198
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・スクールバスの安全運行については、教育委員会、学校、シルバー人材センターが連絡調整を密にし、TPOに応じて運行時間の変更、運行ルートの精査等を実施し、適正且つ安全な運行をおこなっていく。 また、通学路の安全を確保するため、バス運行の視点も加味した通学路点検を実施し、危険個所について安全対策を講じていく。	H27 決算	14,003
② 特色ある学校づくり推進事業	・学校評議員設置業務 学校評議員を全校に配置した。 ・地域住民による学校支援推進業務 地域住民などによる教育活動の充実のための学校支援(ゲストティーチャーなど)を推進した。 ・教育振興支援事業 学校教育振興会へ補助金を交付し、活動を支援した。 ・学校安全指導業務 新1年生を迎えた1学期に各小学校で、交通安全教室を開催した。 ・学校運営の支援業務 小学校3校に日々雇用職員の学校用務員の配置を行った。	【取組への課題】 ・学校評議員の他の学校との情報交換の機会がなく、連携を広げていく必要がある。 ・学校用務員が正規職員の学校と日々雇用職員の学校があるため勤務時間に差が生じている。(校長会からも要望有り)	H25 決算	11,928
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・学校評議員の意見に対する学校の対応について、教育委員会が状況を把握し、教育委員会が調整を図ることで、保護者や地域住民の意向を反映した開かれた学校運営に努めていく。また、学校評議員には、他の学校の学校評議員会議の情報も提供していくようにする。	H26 決算	14,700
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・学校評議員の意見に対する学校の対応について、教育委員会が状況を把握し、教育委員会が調整を図ることで、保護者や地域住民の意向を反映した開かれた学校運営に努めていく。また、学校評議員には、他の学校の学校評議員会議の情報も提供していくようにする。	H27 予算	11,349
③ 「栄っこ宣言」推進事業	・「栄っこ宣言」にある、5つの行動規範を心の糧として夢に向かってがんばり、ふるさと「栄町」を愛する心を育てていくため、小中学生全員に「栄っこ宣言」が印刷されたクリアファイルを配付し、啓発した。	【取組への課題】 ・特になし	H27 決算	8,376
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・児童生徒は栄っこ宣言の5つの行動規範を遵守し、学校生活を送っている。	H25 決算	
			H26 決算	
			H27 予算	225
			H27 決算	225

④	栄っ子夢・元気プロジェクト推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・栄っ子夢・元気プロジェクト推進事業 平成21年度より竜角寺台小学校が実施し、23年度から、新たに安食小学校が学校支援地域本部を設立して、コーディネーターを配置し、学校を支援するボランティアの組織化に取り組んでいる。各学校でボランティアだよりなどを発行し、活動の周知を図った。 	【取組への課題】	H25 決算	539
			・学校統合により安食台小学校の中に組織のある地区と無い地区が混在してしまっている。また、事業自体は生涯学習課、住民活動推進課などの協力体制が求められる事業であることから事務移管も視野に入れ、検討していく必要がある。	H26 決算	663
			【課題を踏まえ今後の対応】	H27 予算	695
			・安食台小学校区全地区がまとまって活動していく土壌を醸成していく。 また、平成28年度より生涯学習課に事務を移管し、よりきめ細やかに事業を推進していく。	H27 決算	679
⑤	教職員等の適正配置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務 ・昇給内申等に関する業務・教職員人事評価に関する業務 ・教職員の昇給内申事務、産休・育休に関する業務、履歴事項に関する業務など教職員の服務に関する業務を適切に行った。 ・療休代替職員として、町負担の事故対策教員を2日間配置した。 ・学級編制に関する業務 ・教職員の適正配置、適正な学級編制を実施した。 	【取組への課題】	H25 決算	164
			・教職員が疾病等のため病気療養に入った場合、県の講師等が配置されるまで、教職員が欠員状態となり、児童生徒の授業等に大きな影響が生じ、また他の教職員の負担増にもなり、学校運営に支障が出る。	H26 決算	113
			【課題を踏まえ今後の対応】	H27 予算	124
			・県の講師等が配置されるまでの間、学校運営に影響が出ないよう、町負担による事故対策教員を配置する。	H27 決算	12
⑥	小・中学校再編事業	<ul style="list-style-type: none"> ・4月1日の統合後に最終的に廃棄することとなった物品の分別、廃棄を実施し、教育財産から行政財産への所管換えも完了した。 	【取組への課題】	H25 決算	228
				H26 決算	12,983
			【課題を踏まえ今後の対応】	H27 予算	850
				H27 決算	739
合 計				H25 決算	13,087
				H26 決算	41,442
				H27 予算	27,441
				H27 決算	24,034

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	きめ細かな学校教育の推進					
現状と課題	<p>栄町では、「教育」を進める上で、「知」「徳」「体」のバランスのとれた「生きる力」を育成している。学校・家庭と地域及び子どもたちどうしが「みんなで支え、共に伸びる教育」を学校教育の方向性として位置づけ、子どもたちが変化の激しい社会をたくましく生きていけるよう、基礎・基本の定着を固り確かな学力を習得させるとともに、地域の特性を生かした体験活動を充実し、個に応じたきめ細かな指導を推進してきた。</p> <p>自ら学ぶ意欲を身に付けた心豊かでたくましい子どもを育てるためには、学校支援員や介助員を活用したきめ細かな教育の展開や家庭や関係機関との連携による心の教育の充実、教職員の指導力向上などが求められている。</p>					
施策の情報整理	目指す成果	一人ひとりの個性を活かし、基礎・基本を徹底させ、思考力・表現力を伸ばす教育により、確かな学力と豊かな心を持ち、社会の変化に対応する、たくましく生きる児童生徒が育成されている。				
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成26年度	平成27年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標)
		千葉県標準学力検査の県平均との比較	小90% 中40% (H25)	小100% 中70%	小100% 中80%	小100% 中100%
	施策全体の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		30,000 千円 27,927 千円
	達成度の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の学力検査においては、実施期間の関係で十分に基礎力が定着できていない面があり、目標を大幅に下回った。 ・学力向上プラン推進(わくわくドラム)については、年々参加児童生徒数が増加し、基礎学力の定着と学習習慣の定着が進んでいる。 ・中学生の海外派遣事業については定員に対し6倍の応募があり、生徒の学習意欲を感じることができた。また、事後の報告会においても、事業の成果を十分に発揮した発表ができた。 ・町雇用の学校支援員、介助員、スクールカウンセラーについては概ね学校の要望に応じた配置ができており、教育支援センター事業も効果を上げている。 ・就学相談についても丁寧に面談をおこない、成果を上げることができた。 以上のことから、成果指標は目標値を達成していないものの、施策全体の目指す成果に対する達成度はほぼ達成していると言える。				
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	運動能力証の交付を受けた児童生徒数(小学校5,6年生、中学校1~3年)が252名となり、小中学校別の交付率では小学校40.6%、中学校36.2%となっており、それぞれ都市平均(小学校29.0%、中学校25.6%)を上回っている。				
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のモラルアップに対する取組 ・学習環境と教員の「授業力」の向上 ・特別支援教育に関するニーズの高まりときめ細かな対応 ・スクールカウンセラーの必要性の高まり 					
住民との協働や他課の事業との連携	・月1回、要保護児童に関する情報交換を、福祉課、健康保険課と行った。					

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成27年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費
① 学力向上プラン推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善推進業務 ・栄町学力向上推進事業 学力スタンダードを活用した取組においては、児童・生徒の漢字・計算の基本的技能の向上に寄与し、千葉県標準学力テストにおいても、前年度の数値を上回るものが多かった。 ・栄町学習道場(わくわくドラム)事業 ①7月~8月の夏季休業中、「基礎学力充実コース(14回)」,12月の冬季休業中、「基礎学力充実コース(3回)」を実施し、長期休業中の児童・生徒の家庭学習の習慣づけに寄与するとともに、基礎基本の充実、探究的学習への意欲づけを図ることができた。 ②年間を通して、「サタデーわくドラ」として栄町学習道場を隔週土曜日に開催し、基礎基本の充実を図ることができた。 	【取組への課題】 ・学力テストの県平均を上回っていない教科、学校がある。小・中学校における実効性のある授業改善研修を推進する。	H25 決算 615 H26 決算 861
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・学力スタンダードの活用を推進する。 ・「学力パワーアップ総合月間」の充実を図る。 ・年間を通して、「わくドラ」として栄町学習道場を維持・発展させるためのボランティアスタッフの確保と研修。	H27 予算 1,341 H27 決算 1,316
		【取組への課題】 ・小学校外国語活動及び英語の早期実施を見据え、小学校教職員研修の充実と外国人指導員の配置が急務である。 ・海外派遣は定員10名に対し60名の応募があり、派遣生徒数の増員を検討する必要がある。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催年の2020年に向け、国の設定する目標「中学生3年生の半数が英検3級相当の英語力を身に付ける」の達成に向けて、具体的な対策を講じる必要がある。	H25 決算 4,391 H26 決算 4,671
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・ネイティブスピーカーを町独自で採用し、小学校にもALTを配置する。 ・次年度は生徒を増員して派遣できるよう予算面等検討していく。 ・より多くの生徒が受検できるよう、学習支援や受検料の助成等検討していく。	H27 予算 7,432 H27 決算 7,048
② 国際化に対応した人間教育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校外国語教育推進業務 中学校には外国語指導助手(ALT)を、小学校には国際理解教育指導員を配置し、各学校の英語活動の指導の支援を行った。 ・栄町元氣事業支援日本食研基金中学生海外派遣事業 国際理解教育の推進のため、町内の中学生をオーストラリア・クイーンズランド州へ派遣し、現地校での語学研修とホームステイ体験を行った。 	【取組への課題】 ・小学校外国語活動及び英語の早期実施を見据え、小学校教職員研修の充実と外国人指導員の配置が急務である。 ・海外派遣は定員10名に対し60名の応募があり、派遣生徒数の増員を検討する必要がある。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催年の2020年に向け、国の設定する目標「中学生3年生の半数が英検3級相当の英語力を身に付ける」の達成に向けて、具体的な対策を講じる必要がある。	H25 決算 4,391 H26 決算 4,671
【課題を踏まえ今後の対応】 ・ネイティブスピーカーを町独自で採用し、小学校にもALTを配置する。 ・次年度は生徒を増員して派遣できるよう予算面等検討していく。 ・より多くの生徒が受検できるよう、学習支援や受検料の助成等検討していく。	H27 予算 7,432 H27 決算 7,048		

③	個に応じた授業改善推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 指導法改善推進業務 小学校4校に学校支援教員を配置した。 特別支援教育整備業務 小学校3校、中学校1校に介助員を配置した。 心身障害児教育、就学指導委員会運営業務 就学指導委員会を開催し、答申により適正な就学指導を行った。(条例改正により、就学指導委員会から「教育支援委員会」に改称) 	【取組への課題】 ・年々特別支援を必要とする児童生徒が増えている。就学相談、就学指導を推進する。	H25 決算	17,731
			・インクルーシブ教育システム構築のための研修を推進し、どの児童生徒にとってもわかりやすい授業づくりをめざす。	H26 決算	17,928
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・保護者の意向を踏まえ、相談業務、就学指導について適切に対応していく。	H27 予算	14,021
			H27 決算	12,726	
④	豊かな心、健やかな体づくり教育推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談体制整備業務 教育相談体制として教育相談員、小学校スクールカウンセラーを配置した。 教育支援センター運営事業 年間30日以上欠席の児童生徒は小学校14人、中学校20人おり、「ゆうがく館」に指導員を配置し、不登校児童・生徒に対する指導、相談及び集団適応支援を行った。通所生徒のうち、5名の児童生徒が学校に復帰するなどの効果があった。 生徒指導支援業務 生徒指導担当者会議を6回開催し情報の共有を図り、生徒指導の助言を行った。 学校人権・道徳教育推進業務 指導主事が学校に出向き、道徳教育について指導・助言した。 体力向上、健康増進教育推進業務 毎年、新体カテストを実施し、食育の推進を行った。 学校図書館教育推進業務 学校図書館司書を各校に配置し整備を図った。 	【取組への課題】 ・継続して勤務できる専門性の高い人材確保が課題である。また、勤務時間を延長させ、図書館司書の有効な活用を図る必要がある。	H25 決算	6,152
			・主に不登校対策としての専門性の高い人材確保が課題である。	H26 決算	6,018
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・児童・生徒の学習意欲向上のため、学校図書館司書を継続して配置する。	H27 予算	6,591
			・SC小学校1校に人配置を継続する。	H27 決算	6,298
⑤	学校教育を担う人材の育成支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 教職員研修支援業務 各学校の校内研修会の開催の支援をした。教職員の資質向上支援のため、各種教職員の所属する専門性を高める研修会の負担金の補助を行い、教育課題に対応できるよう各種研修会を開催し、資質向上に努めた。 	【取組への課題】 ・教職員の不祥事を根絶するための研修会の在り方について、当事者意識が持てるよう考慮する必要がある。	H25 決算	808
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・OJTや研修を充実させ、教職員の資質向上を図る。	H26 決算	744
			H27 予算	615	
			H27 決算	539	
合 計				H25 決算	29,697
				H26 決算	30,222
				H27 予算	30,000
				H27 決算	27,927

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		学習環境の充実					
現状と課題		町の人口減少と共に少子化による児童・生徒数の減少が予測される中、学校運営や教育活動など子どもたちへの教育の影響の大きさが懸念される。児童生徒及び教職員がより良い環境で学習することができ、安心して学校生活を送れるようするための学習環境の整備が必要である。					
施策の情報整理	目指す成果	児童生徒は生活面においては必要な援助が受けられ、学習面においては十分な教材を活用し、授業を受けることができている。また、児童生徒及び教職員は健康面においても安心して学校生活を送れるようになっている。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成26年度	平成27年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		児童・生徒の学校に対する評価	91% (H25)	95%	93%	95%	
	達成度の理由	達成度	★★★	目標を達成(100%) 目標をほぼ達成(80%以上) 目標を達成していない 現時点では判定できない	★★★★ ★★★ ★★ ★ —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)	66,703 千円
		設定成果指標以外に現れた成果の説明	★★★				65,253 千円
	達成度の理由	<ul style="list-style-type: none"> 教科書給与業務については過不足なく給与することができた。また、補助金交付業務についても、適時に交付することができた。 私立幼稚園就園奨励費補助金、私立幼稚園保育料等助成金についても適正に執行することができた。特に私立幼稚園保育料等助成金は今年度からの新事業であるが、多子世帯の保護者負担の軽減について十分な効果をあげている。 学校保健事業については、定期健康診断、生活習慣病予防健診、精密検査等を通じ、児童生徒及び教職員の健康管理をおこなった。 就学支援事業については、支援をのぞむ保護者に対し、公平公正に調査検討し、必要な支援をおこなった。 学齢簿の管理、区域外就学等について適正に事務をおこなった。 以上のことから、施策全体の目指す成果に対する達成度はほぼ達成していると言える。					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<ul style="list-style-type: none"> 食物アレルギーを持つ児童生徒のアナフィラキシーショックに対する対応。 平成28年度より定期健康診断の内容が一部変更になる。 					
住民との協働や他課の事業との連携	<ul style="list-style-type: none"> 健康保険課(食育・歯科保健指導) 教育総務課(施設管理) 						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成27年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費
① 学習環境充実事業	<ul style="list-style-type: none"> 小学校教科書改訂及び教科書給与業務 教科書の給与業務を適切に行った。 補助金交付業務 「生徒ヘルメット補助金」「栄中学校部活動補助金」の交付業務 学校教育振興・運営業務 各学校へ予算を配当し適切に執行管理を行った。 	【取組への課題】 ・学校配当予算の適切な執行について学校と連携を図っていく必要がある。	H25 決算 15,915
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・消耗品等の適正な支出について、学校内で調整を図ることを推進すると共に、学校事務職員と教育委員会事務局が連絡を密にし、学校事務共同実施を活用しながら適正な執行をおこなっていく。	H26 決算 10,423
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・消耗品等の適正な支出について、学校内で調整を図ることを推進すると共に、学校事務職員と教育委員会事務局が連絡を密にし、学校事務共同実施を活用しながら適正な執行をおこなっていく。	H27 予算 18,141
			H27 決算 17,822
② 私立幼稚園就園奨励費補助事業	<ul style="list-style-type: none"> 私立幼稚園就園奨励費補助業務 私立幼稚園に通園している町内在住の園児の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担能力の程度(世帯構成と町民税所得割課税を確認)に応じ、保育料の所要経費の一部を補助した。 	【取組への課題】 ・国の補助限度額が拡充されたことにより、町の規則改正が必要になり、同時に支出も増額になる。	H25 決算 25,864
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・国の基準の改正を踏まえ、町の規則を改正し、財政部局と調整しながら適正に事業を実施していく。	H26 決算 29,792
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・国の基準の改正を踏まえ、町の規則を改正し、財政部局と調整しながら適正に事業を実施していく。	H27 予算 30,035
			H27 決算 29,657
③ 私立幼稚園保育料等助成事業	<ul style="list-style-type: none"> 私立幼稚園保育料等補助業務 多子世帯の経済的負担の軽減として、私立幼稚園に通園している、町内在住の第3子以降の園児の保育料を無料にするため、保育料等から私立幼稚園就園奨励費補助金を差し引いた残りの金額を全額助成した。 	【取組への課題】 ・特になし	H25 決算
			H26 決算
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・引き続き助成事業を実施する。	H27 予算 3,002
			H27 決算 3,002

④ 学校保健衛生事業	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断業務・生活習慣病予防健診業務 児童生徒に内科検診・歯科検診・眼科検診・耳鼻科検診・ぎょう虫卵検査・脊柱側弯症検診・心電図検査・結核検診・尿検査を実施した。 中学1年生、小学校5年生に生活習慣病予防検診を行った。 学校保健に関する業務 栄町学校保健会の事務局として学校医、学校歯科医の健診の日程調整を行った。 学校衛生管理業務 学校給食の配膳に関わる学校用務員の細菌検査を行った。夏休み中に学校配膳室の害虫駆除を実施した。 災害共済給付に関する業務 学校の管理下の児童生徒の災害に対応する日本スポーツ振興センターの掛金の納付、給付金の請求事務を正確に処理した。 	<p>【取組への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に課題として大きく取り上げるものはない。教育委員会、学校、学校医の連携により健康診断業務は円滑におこなわれており、他の業務についても問題はない。しかし、学校保健法の一部改正により、平成28年度からぎょう虫卵検査が廃止になり、新たに運動器健診が加わることになったため、対応が必要となる。 <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施年度は平成28年度からであるが、適正な診断ができるよう、学校医と連携して問診票の作成や健診の流れなどについて事前準備を整えていく。 	H25 決算	7,498
			H26 予算	7,689
			H27 予算	7,329
			H27 決算	6,767
⑤ 就学支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 要保護及び準要保護児童生徒就学援助業務 学校教育法に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、教育委員会会議で認定を受け、必要な援助を行った。 特別支援教育就学奨励業務 特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担の能力に応じ、就学に必要な援助を行った。 	<p>【取組への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 就学援助に対する認識が保護者間、学校間で差がある場合があることから就学援助について周知を徹底させる必要がある。 <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学説明会の際の保護者への周知、要保護及び準要保護児童生徒認定要領及び認定基準等の学校への周知を徹底し、保護者間、学校間の認識が等しくなるようにする。引き続き民生委員にも総会等の機会を活用し、準要保護の制度について周知を図っていく。 	H25 決算	5,425
			H26 決算	5,762
			H27 予算	6,464
			H27 決算	6,338
⑥ 就学事務の適正化推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 就学時健康診断業務 学校教育法に基づき、就学指定校の変更、区域外就学に関する業務、入学通知に関する業務を適切に行った。小学校への就学前児童の就学時健康診断に関する事務についても、入学通知業務同様に転出入の管理をして正確に行った。就学に関わる事務を適切に行った。 学籍管理・学校の就学に関する業務 学籍簿に関する業務 学籍簿に関する業務として、就学予定者と転入児童生徒の学籍簿を新規に作成した。また、転入児童生徒の学籍簿記載事項の変更について、加除訂正を適切に行い、該当校長に通知した。児童生徒の転入・転退学の管理事務を適切に行った。 各種調査研究・統計に関する業務 	<p>【取組への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正に事務を遂行する。 	H25 決算	610
			H26 決算	587
			H27 予算	651
			H27 決算	586
⑦ 子育て世帯家庭教育支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 子育て中の保護者に対し、家庭教育に関する学習機会と知識・情報の提供に努めるとともに、アドバイスをを行った。 	<p>【取組への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業内容が家庭教育に関することから、より効果的に事業を進めていくため、生涯学習課への所管換えが必要となる。 <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度より生涯学習課事業として実施予定。 	H25 決算	
			H26 決算	
			H27 予算	1,081
			H27 決算	1,081
合 計			H25 決算	55,312
			H26 決算	54,253
			H27 予算	66,703
			H27 決算	65,253

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	学校給食の充実						
現状と課題	近年「食の安全性」に関して危惧される事案が多く見受けられる。このような状況下、町は児童・生徒に安心・安全な給食を提供するため、より一層安全衛生基準に基づいた取り組みを講じていく必要がある。 また、給食をとおして食の重要性を児童生徒が理解し、その結果、給食残菜の軽減に繋がるよう食育に関する指導体制が求められている。						
施策の情報整理	目指す成果	児童生徒の心身の健全な発達に資するため、適切な栄養摂取による健康保持増進と望ましい食習慣を養うとともに学校生活における食育の充実を図る。					
	成果指標及び実績		現状値	平成26年度	平成27年度	平成30年度 <small>(教育振興基本計画目標値)</small>	目標数値の説明
		児童・生徒の給食を食べた量の割合(%)	85% (H25)	90%	90%	90%	
	施策全体の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) 目標をほぼ達成(80%以上) 目標を達成していない 現時点では判定できない	★★★ ★★ ★ —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		145,521 千円
		達成度の理由	児童生徒の喫食率向上に向けた取り組みとして栄養指導・献立内容の工夫等を行ったが、昨年度とほぼ横ばいの数値となっている。特に中学生の喫食率が小学生より低い傾向にあるため、食育を通じてより子どもたちの食への意識の向上を高めていく必要がある。				
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	総合的には、適切な施設管理と食材の安全性を確保し、安全で安心な給食を児童生徒に提供するとともに健康増進に寄与していることから、「目標はほぼ達成」と判断した。					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	○施設維持管理事業:調理場設備の経年劣化による老朽化が懸念されるため、適正な機器の更新及び修繕を計画的に進めていく。 ○給食事業:元氣さかえ食育推進プランにより、学校、家庭、地域が一体となり子ども達が自らの食について考え、選択する判断力を身につけ生涯を通じて健全な食生活をおくれるよう指導していくことが必要である。 また、食物アレルギーを持つ児童生徒のアナフィラキシーショックに対する対応が求められている						
住民との協働や他課の事業との連携	・産業課及びJAとの連携による地元産産物の利用の促進 ・福祉課と連携し給食費の適正な徴収を図る(児童手当からの徴収) ・町のごみ減量化計画との関連性						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成27年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 給食運営事業	○安全衛生基準に基づいた食材の調達及び調理、配送を行い給食の安定供給を確保する。 提供日:191日 食数:1,330食/日 ○児童生徒の健康被害に繋がるような食中毒・異物混入等の事例はなかった。 ○「元氣さかえ食育推進プラン」に基づいた栄養教諭による食に関する指導を行った。 栄養指導:小中学校各4~6回(2・3学期)	【取組への課題】 ・栄養士による食育を通じた栄養指導及び各小中学校の担当教諭と連携しながら喫食率の向上及び給食残菜の減量化に取り組んでいるが現状は目標数値に至っていない。	H25 決算	143,186
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・H25の喫食率からほぼ横ばいの状況が続いているが、今後も食育を通じて児童生徒の「残さず食べよう」という意識に繋がる取り組みを行っていく。 ・児童生徒が考案した献立を取り入れる等子どもたちが給食を身近なものとして考えるきっかけづくりを行っていく。	H26 決算	143,993
			H27 予算	139,979
			H27 決算	137,954
② 施設維持管理事業	○給食の安定した供給を図る為、調理場施設の機能維持管理を強化する。	【取組への課題】 施設内における配管設備及び調理機器に対する修繕箇所が、年々増加傾向にある。施設機能の低下による給食の安定供給を損なうことのないよう維持管理を強化していく必要がある。	H25 決算	22,998
		【課題を踏まえ今後の対応】 施設の修繕計画及び厨房機器の更新計画を精査し、財源確保について関係機関と協議し次年度予算に反映する。	H26 決算	4,678
			H27 予算	5,396
			H27 決算	5,383
③ 給食費徴収事務事業	○収納対策の強化を図るため滞納者に対する法的措置の検討を行う。 ○保護者に対し給食費の適正な賦課を行い、未納者には臨戸徴収及び納付相談を行う。 ○児童手当からの徴収を行う。(3回/年)	【取組への課題】 収納率はH26と比較し0.8ポイント向上したが、収納対策において更なる強化が必要である。	H25 決算	116
		【課題を踏まえ今後の対応】 引き続き、給食費未納者に対しては町の徴収事務取扱要綱に基づき適正な徴収を行う。H28からは過年度分長期未納者に対して法的措置を実施する。	H26 決算	112
			H27 予算	146
			H27 決算	107
合計			H25 決算	166,300
			H26 決算	148,783
			H27 予算	145,521
			H27 決算	143,444

学識経験者の意見（全体を通しての感想）

少ない予算の中で、その予算をいかに有効に子どもたちのために活用するかということにみなさんが腐心されていることを感じる内容だった。

学校に行くと特徴的なのは、「栄っこ宣言」を声高々に子どもたちが言っていて、元気が良くていいなと聞いている。この子どもたちの夢、どんな風に育っていくのか、その夢を育むためにそして夢に向かって挑戦できる子どもを育てていくためにどうしたらいいのかという事が私たちの課題ではないかと思う。

昨年度は26年度までの計画が終了し、27年度からは新しい教育振興基本計画が始まった、ある意味スタートの年でもあったので様々な面で、計画していたものとは若干異なるような結果が出てしまった部分もあるのではないかと思う。

学識経験者の意見（基本方針（1）について）

【施策名：教育行政の充実】

- ・ 予定どおり会議等運営が行われたということでは、星3なのではと思いますが、昨年度もだいたい同じ内容で星2だったので、最初の説明にあったように「総合的に判断する」ということで理解したいと思う。ただ、目指す成果に教育に関する国等の情報が的確に収集されとあるが、是非、子どもファースト、子どもの目線などを目指す成果にも一言入れると、より教育委員会として、どこを向いて事業を行なっているか、立ち位置がはっきりすると思う。
- ・ この指摘は同意見です。前回と違って、施策全体を評価して星をつけるので、教育行政の充実については、施策全体の達成度のパーセンテージはここはない方がいいのではないかと思う。なぜかという、全体を見て評価しているので、今年は目標を達成が2でほぼ達成が9なのに目標達成が三ツ星で、去年のほうが目標の達成が多く、ほぼ達成が少なくても二ツ星だった。そこを誤解を与えてはいけなくて、去年は個別（成果指標）だけでみていったのでいいが、評価の仕方の基準が本年度は変わっているので、定性的な評価として本来の成果目標が達成できているから目標を達成したということで、ここはあくまでも総合評価なので、表の中の星の部分のパーセンテージ表記を削除したほうが誤解を与えないのではないか。総合的に判断したという意味合いが強まるのではないかと思う。
- ・ 教育委員会が学校教育の現場への取組みとして、今、言われていますコミュニティースクールを推進しましょうという方向性があると思う。地域と一緒にやって学校運営協議会を作って、コミュニティースクールを作っていこうというのがあると思うが、子どもに目が向く学校の役割というのは、地域の活性化と地域の教育の核になるという役割を担うことでもあるので、目指す成果として、地域における核を担う教育現場というのを目指す成果として記載すると良いのではないか。つまり「地域」というワーディングを入れるということ。例えば、地域の活性化、地域づくり、地域と一緒にやっていくという表現を入れてはどうか。今までの教育委員会と違って地元目線でやっていくということが明確になるのではないか。
- ・ 外部環境の変化にも関係してくると思うが、学校の先生の校務が非常に負担が大きい

ため、本来の教育に専念できないし、時間的にも精神的にも体力的にも消耗する。モンスターペアレントなどの対応にも追われるという現状がある。校務の負担を減らすという意味で、「チーム学校の積極的な推進をしていく」という表現を記載すると良いのではないか。「コミュニティースクール」、「チーム学校の積極的な推進」という表現を総括の部分に記載すれば、教育委員会の活動を活発にきちんと取り組んでいることが明確となるのではないか。

- ・教育現場に対して情報の公開をきちんとやることを、より一層指導してほしい。いじめなど色々な問題があるが、隠そうとするため、オブラートに包む傾向がどうしてもあると思う。責任の追及ではなく、学校教育を一層健全化するためという目的であって、犯人探しではないということをハッキリさせることで、学校現場から教育委員会に上がる情報の一層の風通しの良さを図る指導を行っていくことが大事ではないか。
- ・教育委員会内部のガバナンス、教育委員同士の情報の共有化、意識の共有化、教育委員会の中での風通しの良さをより一層徹底して、色々なことが教育委員会の中で活発に議論ができて、それが教育現場も含めて教育環境の改善につながっていく、そのような教育委員会になれば良いと期待をもって思っているところである。
- ・企業等と教育現場との連携による教育支援を促すため、学校側に置かれる「地域連携担当職員」の活用や行政サイドのサポートについて、教育委員会としても積極的に働きかけるべき。

【施策名：学校教育環境の整備】

- ・夏休みになって学校を訪ねた時に、空調の工事が行われていてようやく実現の場になったと思った。
- ・トイレ洋式化については、国の第2次補正予算で通ったようなので、子どもたちからの要望も多いのではないかと思うので、是非よろしくお願ひしたい。
- ・事務事業で学習環境整備事業と学校管理運営事業分かれていて、学校管理運営については維持修繕が中心だということで、栄中学校の防水工事が入っているが他に大きく支出したものはなかったのか。
- ・夏休み前にプール指導の話が先生方から出て、栄町ではプールが使えないということで、町長や教育長のお骨折りで印西市のプールを使わせてもらったと聞いていたが、プールの記載がひとつもないので、栄町では取り組みはないという意味なのか。
- ・ICTの教育を充実していくという議論があるが、電子黒板や無線ラン、生徒に対するPCなどICTツールの整備の状況はどうなのか。PC教育の機会はどうなっているのか。
- ・先生方の問題になっているのは、授業以外に雑用が多すぎるという問題点があると思う。その問題点の負担軽減のために、校務の情報化は学校経営の改善にもつながることからICT化を進めていくという方向性はあると思うが、ハードとICT教育支援は今どのような状況になっているのか。ICT教育支援員の配置状況はどうなっているのか。中央教育審議会第3期の教育振興基本計画が議論され、ICT教育が1つの大きな柱になってくると思うが、栄町では初等中等教育においてはどのような状況になっているのか。
- ・スマホ教育も大事になってくると思う。有害なサイトやLINEを通じた友だち付き合いからいじめに発展してしまう。そういった状況を考えた時に十分なスマホ等の教育予算が国や県から来ているのか。

- ・ICT支援員が不足している場合には、例えば民間の企業から来てもらうなど協力していただく方法もあると思う。ICT教育に包括的に取組まれると厚みがでるのではないか。

【施策名：特色ある学校づくりの支援】

- ・スクールバスなど、統合があったので大きな課題だったと思うが、朝はよく利用すると話を聞きました。ただ、帰りはそれぞれ差があるので利用しない子もいるという話も聞きました。実際の利用率はどのくらいか。
- ・地域の様々な人材を生かした、特色あるそれぞれの学校の取組みを大いに期待するところだが、一つ心配なのは学校評議員が他の学校との情報交換がない、情報がわからないということだが、他の学校の情報等ではなく、校長が地域の評議員に対して諮問するような会議なので特別そういう内容は必要ないのではないかと思う。なんでもかんでも地域の要望に答えるようなことをしてしまうと、益々学校の仕事が増えることも危惧している。会議などもスリム化されて、より多くの時間を子どもたちに、さかれていくことを期待したい。
- ・達成度の理由のところ、学校は学校評議員を通じて地域住民の意向を反映した開かれた学校づくりを実践しているとあるが、例えばどういうものがあるのか。
- ・地域の住民の意向を反映させるためには、教育委員会とは別な多様なカテゴリーの方を学校評議員として委嘱したほうが色々な声が反映されるのではないかと、つまり学校評議員の存在意義がより一層明確となるのではないかと思う。教育委員会の構成メンバーとほぼ同じようなカテゴリーから選んでしまうと、せっかく学校評議員を通じて地域住民の意向を反映させ、開かれた学校づくりの有り方が、別の角度から議論され、教育現場に活かされる機会なのにそれが活かされずもったいないと思う。学校評議員の委嘱のあり方についても、一工夫されると、より一層、学校評議員が生きてくるのではないかと思う。結果的にはモンスターペアレントや地域エゴなどに対し、地域における学校自身に対する理解促進につながるのではないかと思う。
- ・達成度は、保護者アンケートが星2つで93%ということだが、全部通して言えると思うが、基本的にはもちろん定量的なものもあると思うが、それも含めて本来の施策の目標がどの程度達成できているかどうかというのを、総合的な指標として理解していると思うので、そういう意味では95%の目標に対して93%の数字というのは高く評価して、初期の目標としては達成していると思う。従って、三ツ星をあげてもいいのではないかと思う。民間であれば三ツ星だと思われる。
- ・課題がきちんと出てくるというのは、それだけ教育委員会が真摯に取り組んできている実績。仕事をやったから課題が見えてくるし、課題が見えてくるから今後どうするか出てくる。

【施策名：きめ細やかな学校教育の推進】

- ・1学期だったと思うが、文科省が初めて中学3年生と高校3年生の英語の学力状況を調査したかと思うが、その結果、千葉県は全国中学校は第1位、高校が第2位という結果を聞いて、成田市はトップということで北総地域は英語に対しては力を入れている成果がようやくここに出たという印象を持った。先日、空港周辺の英語のスピーチコンテストがあり、栄中学校のみなさんが準優勝というすばらしい成績だった。今回の報告を見ても英語に対して栄町として取り組んでいることがよくわかる。直接成果ではないか

- もしれないが、間接的にも子どもたちの励みになっていたり、学びにつながっている様々なことをやっていることが感じられた。様々な支援員がいるが希望に合った支援員を学校が得られるのは難しいなか、成果を上げているのはすごいという印象をもった。
- ・全国学力状況テストがあったので、千葉県はどうかと見ていたら真ん中で、英語はトップだったが、学力は真ん中で英語に力を入れすぎているのかと感じた。栄町の学習の状況が小学校はなんとか85%で、中学校が13%というのは時期的な問題があるにしても、心配な原因を時期的な問題ですませられるのか、その辺をどのように中学校の先生方が分析されたのか知りたいところである。
 - ・不登校の問題が栄町の場合は昔から続いていて、家庭の協力を得られず改善できないことが多いが、ふれあいプラザさかえのゆうがく館で対応していると聞いているが、実績、内容がどうなのか心配な感じがした。いずれにしてもきちんと対応していると感じた。
 - ・きめ細かな学校教育の推進は極めて重要だと思っている。特に栄町は人口減ということで、人口減の中でどういう形で栄町が魅力ある町としてアピールしていくか。その点、学校教育が1つの目玉になっていくと思うので、そういう中で、きめ細かな学校教育というのを、栄町が行えば非常にいい町とのPRになると思う。国際化に対応した人間教育事業は大変良いと思うが、小学校からパソコンにどっぷりつかっている生活なので、ICTを使いこなす、活かす教育、コンピューターサイエンスの基礎的な教育の強化も重要な分野になると思うので、ひとつの柱だとして、今後一層取り組まれていってはどうか。
 - ・一方的に先生が生徒を教えるのではなく、生徒が参加する参加型教育が魅力ある授業になってくると思う。体験学習やグループ討議、意見発表など、そういった生徒や児童が授業に自分が参画して自分が中心になっているんだという学習内容が、魅力的であると思う。生徒や児童が参加型の授業についても、一層力を入れるといいのではないかな。
 - ・英語教育でいえば、教員の英語力にばらつきがあるのではないかな。英語はしゃべれるが指導が難しいという問題もあると思うので、ALT（外国語指導助手）や企業から積極的に出向して先生として授業してもらうなど、幅広く周辺にある色々な人材を活用しながら、語学指導や英語教育も含めて学校の先生の足りない所を補完していくというのは必要だと思っている。英語教師の質の均質化をどのように図るのか、外国人や企業も含めて周辺にいる人材を活用しながら、魅力ある事業をどうやって行っていったらいいのかということを考えていくのが、全体の課題の一つではないかなと思っている。
 - ・特別免許制度を活用した企業人を活用していくことはやっているか。
 - ・アクティブラーニングをこれから本格的に取り組むということなので、そのことを記載した方がいいのでは。
 - ・海外派遣で語学研修とホームステイ体験を行ったということだが、逆にホームステイを受け入れる、お互いに交流するという対応をしてはどうか。
 - ・海外派遣を次年度は生徒を増員して派遣できるよう予算面等検討していくとあるが、栄町以外の他市の企業に声をかけるなど予算面をなんとか確保する課題がある。

【施策名：学習環境の充実】

- ・気になったのは、成果指標で子どもたちの満足度が4%下がって、保護者も2%落ちているということだが、わずかには見えるが栄町の子どもの数からすると50人弱くらいになる。満足度が下がる事情は何なのか。

- ・ 就学支援事業で、対象になる子どもの支援の基準は経済的理由だけではなく、他に理由があるので、就学支援事業の対象となるということはあるのか。あくまでも経済的理由だけに限定されるのか。
- ・ 国の基準は画一的なので、地域には地域の需要があるし、教育委員会の存在意味の一つは、きめ細かな教育行政をやっていくという点が大きい。国のしくみのすきまをできるだけ埋めていく就学支援をしていくと、町の魅力となるのではないか。
- ・ 家庭教育が不十分だといじめる子になったり犯罪に走ったりする。健やかな家庭環境を育むため、教育現場においても少しでもカバーしなければならないのではないか。
- ・ 就学事務の適正化推進事業で、学齢簿に関する業務とあるが、就学前の行方不明発見や虐待防止などにもつながるので学歴簿に関する業務は、大事になってくることから、より一層留意されたい。
- ・ 課題を見ると教育委員会というよりも、国の補助限度額の基準の改正や蟻虫検査が無くなったなど、他律的な要素で課題になっていることが多いと思うので、評価は星3にアップでもいいのではないかと思う。
- ・ 子育て世帯の家庭教育支援で、昔は母子父子と言っていたが今はステップファミリーと言われている家庭がすごく多くなっており、色々複雑な状況があるので家庭教育学級というのは、今までとは違うものを考えていかないといけないと思う。

【施策名：学校給食の充実】

- ・ 遺伝子の組み換え食品というのが、はっきり明記されているものはいいが、それによって作られた油類や粉は明記する必要がないので、どれだけ入っているか日本人は気づいていないという話を聞いて、栄町としてはこれがいいかどうかははっきりしていない物に対して、給食の食品の扱いとしては話し合い等が行われているのか聞きたい。
- ・ 学校給食は非常に重要な部分であるが、目標数値が児童・生徒の給食を食べた量の割合とあるが、どれだけバランスよく食べているのか、カロリーはどうなのかそういう部分での指標はとれないのか。例えば、焼きそばばかりたくさん食べた生徒と焼きそばは少しだが野菜も食べた場合、食べた量が少ない方が残菜が多くなるのでダメということになる。栄養のバランスを指標として設けるような違う観点から目標をたててみてもいいのでは。
- ・ 中学生の喫食率が小学生より低い傾向にあるため、食育を通じてより子どもたちの食への意識の向上とあるが、中学生の喫食率が小学生より低い傾向なのはなぜか。
- ・ 量だけでみるのではなく、質の部分もみていく取り組みが今後大事になる。栄養のバランスの教育に力を入れていく事業を入れていけばどうか。
- ・ 給食費の滞納問題で、収納対策の強化を図るため滞納者に対する法的措置を行う、未納者には臨戸徴収及び納付相談を行うとあるが、これは誰が行うのか。
- ・ 給食センターの職員が滞納対策を行うようだが無理があるのでは。一工夫しないと効果が上がらない。金だけ取ると反発がくるので、給食は教育という意義を父兄にもわかってもらう必要がある。徴収方法と誰が徴収するのか行政と相談したほうが良いと考える。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

教育総務課より

【施策名：教育行政の充実】

- ・ 目指す成果に、栄町教育振興基本計画にもあるように、家庭・学校・地域を連携し、それぞれの役割を果し合いながら、学校教育、生涯学習、スポーツ、芸術文化などの各分野に積極的に参画することで、「豊かな心と生きがいを育み歴史と文化が息づくまち」をつくり「夢に向かって挑戦する栄っこ」を育むことができる社会の実現を目指していくということを入れていきます。
- ・ 町の将来を担う子どもたちが、「栄町で育ってよかった」、「栄町に住み続けよう」と思えるような教育施策を進めていきます。

【施策名：学校教育環境の整備】

- ・ トイレ洋式化については、国の第2次補正予算で採択されたため、大規模改修工事を実施済みの安食台小学校を除く小・中学校4校の工事を進めていきますが、これから事業申請を行うことから、28年度内での工事完了が工期的に難しいことから、繰越明許での工事となると予想されます。
- ・ 学校に設置してありますプールにつきましては、全校使用不可ということで老朽化により修理することも耐えられないことから、今後、壊していく計画を立てていきたいと考えています。
- ・ 町民プールにつきましては、生涯学習課が維持管理をしています。28年度当初にプール点検した際に、プールを底上げする台の老朽化が著しく、足がはさまってしまうという危ない状況が判明したことから、一時的に使用を停止しました。プールフロアの入替えにつきましては終了しましたが、建設してから20年以上経過していますので、28年度内にポンプや濾過機の修繕をして次年度の開放に向けて準備していきたいと思えます。
- ・ パソコン教室については、各学校1学級の児童生徒が常時使える台数があり、ある程度の年度で更新しています。
- ・ 教室の無線LANは行なわれていません。教室に対して有線のLANが1本あり、そのLANでインターネット等は可能です。それをモニタリングとして見せることは可能です。校務のICT化については、教員1人ひとりにノートパソコン1台が配置されています。今後の方向性としては、有線LANの環境を整えて子どもたちにタブレットを利用した授業をとり取り入れていきたいと考えています。

学校教育課より

【施策名：特色ある学校づくりの支援】

- ・ スクールバスの利用率については、小学生は旧北辺田小学校区、旧酒直小学校区の子ども達全員が利用しています。
中学生は主に竜角寺台地区より100名前後利用しています。時間に制約があるので少しずつ自転車通学に向けていきたいと思えますが、時代の趨勢として保護者の送迎が多く、中学校のスクールバスの利用は当分続くと思われます。
かつて、安食中学校と布鎌中学校が統合したときは3年くらいでスクールバスが廃止になったと聞いていますが、中学校についてはスクールバスの利用は継続していくも

のとらえています。

- ・学校評議員を通じた開かれた学校づくりの実践についての関連事業は「特色ある学校づくり推進事業」です。学校評議員は5名以内で、学校運営に関する意見をいただくものです。
- ・学校評議員は、「栄町学校評議員制度設置要綱」により、保護者の代表、学校区内の地域関係団体代表、学校区内外の学識経験者に委嘱するとされています。

【施策名：きめ細やかな学校教育の推進】

- ・中学校については、小学校から引き続き学力スタンダード、わくわくドラム等を通じて基礎学力の定着を図ってきましたが、現在、教科内の会議を強化するとともに、小学校から行ってきた学習過程を、中学校でも同じような形で問題解決的な学習方法を取り入れるよう努めているところです。

今回の全国学力・学習状況調査では国語のA問題という基礎的なところは国平均と同程度で、B問題は上回りました。ここは少し成果があったと言えるところです。ただ、数学については、記述的な問題をあきらめてしまって、取り組めていないところがありました。基本は出来ているので、応用的な問題に対応する力をつけていかなければならないと考えています。

- ・平成27年度の30日以上長期欠席の小学生の割合は2.2%でした。県の数値と比較すると約3倍近い数値となります。中学校は、4.5%で県の約2倍近い数値となっており、高止まりとなっています。中学生を中心として、教育支援センターゆうがく館を利用しており、27年度は4名利用しました。課題として、学校とゆうがく館との協力関係を強めることが必要と考えています。昼間に家庭訪問をして支援していくことも必要ですが、人的な面もあり今は実現できていません。現在の状況は、先生方が放課後に家庭訪問をしている状況です。来年度に向けて昼間も支援していけるような体制を作りたいと考えています。
- ・児童生徒の参加型授業については、平成27・28年度の2カ年にわたり、竜角寺台小学校が算数科の研究指定校としてアクティブラーニングの研究を実践し、10月末に公開を控えています。この研究成果を町の他の学校にも広げていきたいと考えています。また、安食台小学校も積極的にアクティブラーニングに取り組んでいます。
- ・英語教育については、今年度より中学校の外国語指導助手（ネイティブスピーカー）を小学校に配置し、週1～2回授業をおこなっています。中学校についてはJETプログラムにより外国人青年を招致し、アシスタントティーチャーとして8月より中学校に派遣しています。小学校教員に対する研修では、英語科の指導主事を校内研修の講師として派遣しています。

企業の人材を活用することについては、実施できていません。

- ・海外派遣については、28年度は2名増員し12名で、自己負担額を10万円以内としました。残りの費用については「栄町元気事業支援日本食研基金」より支出しています。海外のホームステイ先を旅行代理店に探してもらい、体験をおこなっている状況で、交流という形ではありません。

栄町では、台湾の高校生のホームステイを受け入れており、その事務は教育総務課が行っています。

【施策名：学習環境の充実】

- ・ 成果指標が下がったことについては、平成 26 年度に長澤先生より、教育委員会が意図する児童生徒の学校に対する満足度と、子ども達が感じている満足度というのは必ずしも同じではないのではないか、というご指摘をいただいてアンケートの内容を少し見直しました。それと同時に後期基本計画、栄町教育振興計画を策定しましたが、その際に成果指標、目指す成果等は変更しても良いということであったため、平成 27 年度に指標を実際に即した数値に下げたものです。細かいところを言えば、子どもとしてはスクールバスの便が思い通りにいかないこと、親は学力面の結果に対する思いが数値として表れてしまっていると考えられます。
 - ・ 就学支援には 2 種類あります。1 つは特別支援教育就学奨励費、1 つは要保護・準要保護就学援助費です。特別支援教育就学奨励費は国の補助事業で 1/2 が国庫補助です。所得で判断し、所定の計算式により補助対象経費が決まります。就学援助費については、以前は特別支援教育就学奨励費と同様に国の補助事業でしたが、補助基準は明確ではなく、学級費が滞りがちであるとか身なりが良くないとかでしたが、現在は基本的な判断は収入、所得です。就学援助については、教育委員会議により認定されるので、その際に議論がなされることもあります。どちらも収入、所得で判断されます。
 - ・ 就学前の子どもについては、就学時健康診断をおこないます。実施にあたっては指導主事が幼稚園、保育園、保健師等から子どもや家庭環境に関する情報を収集し、実際に子どもの状態を確認しながら健診をおこなっています。
- 外国籍のお子さんについては日本の学校への就学義務がないため、実態の把握、入学の意思確認を確実にこなしていきたいと考えています。

【施策名：学校給食の充実】

- ・ 遺伝子の組み換え食品は、国の法的審査により安全性が確認された食品が輸入・製造・販売されており、安全性が確認された遺伝子組み換え農作物（大豆・トウモロコシ等）とその加工食品について表示が義務付けられています。センターでは賄材料業者より提出される食材の分析表により当該食品の含有の有無についてチェックを行っています。
- また、日本では遺伝子の組み換え食品を原材料として微量に使用されている場合は表示の義務がありません。しかしながら、市場に出ている遺伝子組み換え食品は前述のとおり安全性が確認されたものと認識しています。
- ・ 目標設定の根拠として、総体的に残菜量が少なければ必要な栄養摂取が図れていると判断していましたが、ご指摘のとおり全体量だけでは栄養摂取率に関して曖昧な部分があるため、学校給食の栄養摂取基準であるエネルギー、たんぱく質、脂質、塩分等について残菜によって影響度がどのくらいあるのかを分析する必要があります。今後目標設定については検討課題とします。
- 中学校生徒の喫食率の低さについては、献立に対する本人の嗜好性、体調の変化、食習慣の乱れ等、小学校児童に比べより顕著に表れていると考えています。今後も学校と連携し食育指導に努めていきます。
- ・ 学校給食費については、各年度当初に保護者全員より給食申込書を提出してもらっています。本申込書は給食費の用途及び受益者負担の公平性について説明し町が行う負担金徴収に際しての担保としています。（保護者との契約書として取り扱い）
- 収納率向上を図るため、各滞納世帯に対し納付相談を積極的に行うとともに、滞納者

に対し徴収事務取扱要綱に基づき、より強い姿勢で収納にあたる必要があることから、その一環として法的措置を実施するものです。

滞納問題に関しては、給食センター職員だけでは対応が困難ことから町の関係部局、教育委員会及び各学校長も含め組織全体で滞納問題に関する意識の共有とあらゆる面で滞納者へのアプローチ等を図りながら今後も取り組んでいきます。

基本方針（2）

生涯学習とスポーツを通して、心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくとともに、地域の教育力を活かした子どもたちの健全育成を推進します。

【施策名】

- ・生涯学習環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 2
- ・生涯学習資料の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 3
- ・スポーツ振興事業の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 4

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 5

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・ P 2 7



施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		生涯学習環境の充実				
現状と課題		<p>・家庭や地域の教育力の低下が指摘されており、次代のまちづくりを担う子どもたちが、豊かな人間性を育むことができるよう、学校・家庭・地域は、「学び」や「育ち」を支えるためのそれぞれの役割と責任を自覚し、相互の連携と協力のもとに、地域全体が積極的に関わっていく体制を構築する必要がある。</p> <p>・子どもたちは、少子化の影響から、異年齢の子どもと「群れて遊ぶ」機会が減少するとともに、核家族化などにより高齢者と日常的にふれあうことが少なくなる等、地域との絆や社会性を育むための機会が少なくなっている。</p> <p>・趣味や関心に基づく個人的な学習活動のみならず、社会的な課題に取り組む学習を支援するため、民間事業者等の活動のみでは得られない学習機会や情報を、行政が積極的に提供する必要があります。</p>				
施策の情報整理	目指す成果	生涯にわたり学習することができる環境が整備され、市民は、学習活動の成果を様々な方法で活かしながら、地域の課題解決や活性化につなげている。				
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成26年度	平成27年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)
		生涯学習ボランティア登録者数	684人 (H25)	710人	718人	760人
	施策全体の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		2,157 千円
						1,995 千円
	達成度の理由	<p>・自主的に活動しているボランティアの人数は学習アドバイザー19人、図書室ボランティア19人、ふれあい推進委員142人、子ども110番協力家庭485人、学習サークル活動者55人の計720人であったことから、数値的に達成した。</p> <p>・生涯学習ボランティアの高齢化や、固定化は出てきているものの、各事業的には、参加者数・満足度も高かった。</p> <p>以上から、総体的に「目標を達成」と判断した。</p>				
設定成果指標以外に現れた成果の説明	<p>・ふれあい推進委員・青少年相談員・子ども会などの青少年関係団体の活動が活発に展開されており、子どもが地域の中で安全・安心して過ごすことのできる居場所づくりや、体験活動、異世代交流の場づくりが出来た。また、子どもの参加率も全体で30%を超えている。</p> <p>・放課後ふれあい教室(布鎌小・安食台小)の児童登録率は両校とも約3割程度になっている。</p> <p>・アンケートからも参加児童・保護者双方の教室に対する満足度は高い。</p>					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<p>・地域の教育資源(人材・文化・自然等)の有効活用</p> <p>・家庭や地域と連携した安全安心の確保</p> <p>・学校統合に伴い、子どもたちへの他校や異学年との交流機会の提供と活動支援</p> <p>・多様な学習情報の提供</p>					
住民との協働や他課の事業との連携	<p>・当施策の事業は、全て関係団体との協働なくして進めることができない。</p> <p>・「ふれあい推進委員会」の活動では、旧北辺田小学校区での「ふれあい盆踊り大会」をはじめ、学校・PTAとの協力によるサマーキャンプなど、各地域の特性に応じた交流事業が実施されている。</p> <p>・「放課後ふれあい教室」と「ドラム自然楽校」では、ふれあい推進委員会や青少年関係団体・地域のボランティアの活用により、子どもたちへの学習、遊び、体験などの機会を充実させることができた。</p> <p>・前年度、台風の影響により中止した「通学合宿」を、ボランティアの協力により実施し、団体生活の中で、炊事や日常生活の基本を自分自身で行いながら学校に通うことで、社会性などを伸ばし、心豊かでたくましく生きる力を育んだ。</p>					

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成27年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費
① 生涯学習活動支援事業	<p>団塊の世代の活動支援など社会的な課題に対応した各種講座と、長期休業期間中におけるキッズ教室を開催した。</p> <p>○いきいき塾さかえ講座 (26回開催:参加者242人)</p> <p>○学習アドバイザー事業 (36回開催:参加者243人)</p>	<p>【取組への課題】</p> <p>・パソコン教室等の内容がマンネリ化し、参加者数が低調な講座も出ている。事業の数が多いため、ニーズにあった新しい事業と共に既存事業の見直しの時期である。</p> <p>・魅力ある講座の企画と情報の積極的な発信を行う必要がある。</p>	H25 決算 191
		H26 決算 173	
		<p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <p>・新たに子ども国際理解講座(世界の水と暮らしを知らうー実験学習、世界の人々の食生活を知らうーワークショップ学習)などの魅力ある講座を開催し、受講者満足度の向上を図る。また、平成28年度の新規事業として、木工教室や地図づくり教室を開催する。</p>	H27 予算 318
		H27 決算 261	
② 地域教育力向上事業	<p>青少年の健全育成のため、関係機関と連携を図り、以下の取り組みを推進した。</p> <p>○家庭教育学級の支援 (20回開催:参加者741人)</p> <p>○子ども110番活動の推進 (登録世帯数:485戸)</p> <p>○PTA活動の支援 (6回開催:参加者165人)</p> <p>○子ども会育成連絡協議会活動の支援 (7回開催:参加者305人)</p> <p>○青少年相談員活動の支援 (20回開催:参加者1,546人)</p> <p>○放課後ふれあい教室の運営 (2校:参加者758人)</p> <p>○成人式の開催(参加者158人)</p>	<p>【取組への課題】</p> <p>・子どもたちの社会性、自主性、協調性を育むため、社会教育関係団体や地域の様々な教育力を活用しなければ各種事業を実施できない。各種事業への参加者が安全で安心して過ごすためには、大勢のスタッフが必要となる。</p> <p>・小中学校が統合した関係で、児童・生徒の通学路が変更になったことにより、子ども110番登録者の見直しをしなければならない。</p>	H25 決算 2,442
		H26 決算 1,414	
		<p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <p>・今後も子どもが地域の中で安全に、安心して過ごすことのできる居場所づくりや、様々な体験活動、異世代交流の場づくりについては、ふれあい推進委員会をはじめ、青少年相談員や子ども会などの青少年関係団体等と連携を図りながら事業を推進して行く。</p> <p>・子ども110番登録世帯の見直しを平成28年度中に行う。</p>	H27 予算 1,713
		H27 決算 1,618	
③ 体験活動推進事業	<p>自然体験や生活体験等のため、関係機関と連携を図り、以下の取り組みを推進した。</p> <p>○自然体験活動の推進(ドラム自然楽校) (9回:参加者308人)</p> <p>○通学合宿の開催 (参加者31人)</p>	<p>【取組への課題】</p> <p>・子どもの成長に合わせて様々な体験ができるよう、地域社会や保護者に積極的に働きかける必要がある。そのため、地域や行政、学校、関係団体等が子どもや保護者が参加できる体験活動の機会を充実させるとともに、体験活動に関する情報提供を行うなど、学校・家庭・地域が連携して体験活動を推進して行く必要がある。</p>	H25 決算 0
		H26 決算 140	
		<p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <p>・体験活動に係る年間のメニューを広く子どもや保護者にPRするため、広報やHP、行政回覧を活用し積極的な啓発に努めるとともに、各事業の内容もより魅力的で興味を引くように見直しを図る。</p> <p>・通学合宿を実施。平成28年度は全小中学校に募集をかけ、他校や異学年との交流を促進する。</p> <p>・ドラム自然楽校や通学合宿を充実させるためには、地域の支援者の協力が必須。支援者の確保が課題。</p>	H27 予算 126
		H27 決算 116	
合計			H25 決算 2,633
			H26 決算 1,727
			H27 予算 2,157
			H27 決算 1,995

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		生涯学習資料の充実					
現状と課題		<ul style="list-style-type: none"> ・町民一人ひとりが自分にあった主体的な学習活動を継続して行うためには、様々な知識や情報が適切に入手できるような環境整備が求められており、本町の学習拠点であるふれあいプラザ内図書室は重要な役割を担っている。 ・地域の課題解決や生活上の問題解決に必要な情報を町民ニーズを捉えながら提供していく必要がある。 ・学習活動が様々な場所・方法によって実施されていることから、多様な関係者・関係機関が連携しネットワークを効果的に構築するための仕組みづくりを行う必要がある。 					
施策の情報整理	目指す成果	図書資料や情報メディア等を活用して、町民は新しい知識・技術の習得や地域課題の解決などのため、主体的に学習を行っている。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成26年度	平成27年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		図書室利用者数	16,096人 (H25)	16,216人	16,456人	16,696人	貸出者数(個人・団体)／閲覧者数 ／インターネット利用者数
	図書室利用者数		17,411人	18,326人			
	施策全体の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		3,624 千円 3,621 千円	
	達成度の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室利用者数においては、年々増加し、貸出冊数も利用者数に比例し、同様の増加を示している。また、インターネット利用者数も年々増加し、目標値をクリア出来ている。 ・学校での「読書タイム」導入や、学校への団体貸出し等、学校図書室との連携も徐々に進んできており、今後も推進していくことで、子供への貸出しが増加していく傾向。 以上の理由により、総体的に「目標を達成」と判断した。 					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で取り組んでいる「朝の読書タイム」の効果で小中学生の貸出しが伸びてきている。 ・図書ボランティアによる本の読み聞かせ会・おはなし会・人形劇公演・子ども映画会を開催【延べ来場 1,271人】 ・学校図書館司書を対象の研修会を開催【実施数3回】 					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンスサービス(調べ物の手伝い)の充実と利用の促進 「地域や住民にとって役立つ図書室」となり、地域の発展に欠かせない施設としての存在意義の確立を目指すために、レファレンスサービスの充実と利用の促進を図ることはもとより、地域の課題解決や生活上の問題解決に必要な資料・情報を積極的に提供し、地域や住民の課題解決を支援していく。 ・児童サービスの充実 子どもの読書活動や学習活動を支援する観点から、図書室ボランティアとの連携を深めていくとともに、地域格差のある学校図書館への支援を積極的に行っていく。 						
住民との協働や他課の事業との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが絵本・おはなし・映画に親しみ、心豊かな感性を育みながら読書に慣れ親しむよう、図書室ボランティア(おはなしの会・人形劇パレット)や映写ボランティアと連携し、おはなし会、人形劇や子ども映画会などの読書普及活動を展開した。 						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成27年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 図書室管理運営事業	生活関連本を中心に蔵書を充実させたほか、学校に調べ学習や朝読書用の本の貸出を行うとともに、学校図書館司書を対象としたスキルアップ研修会を開催し、子どもたちの読書活動の支援に努めた。 ○レファレンスを含む窓口サービス業務の充実(年間開室日数:288日) ○蔵書整備業務(購入644冊/寄贈1,021冊) ○学校貸出し81回	【取組への課題】 ・年代別の利用状況を見ると、13歳から22歳の利用が圧倒的に少なく、これらの世代の読書活動を普及させる方策が必要となっている。 ・児童寺台小や布鐘小の児童は、ふれあい図書室を利用するには移動の問題があるため、学校への団体貸出しを推進していく必要がある。	H25 決算	4,325
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・千葉県公立学校教職員互助会より県内図書館等への学校図書支援用図書の寄贈事業の対象となっており、学校司書からの要望も聴きながら選定し、ヤングアダルトコーナーを中心とした蔵書の充実を図っていく。	H26 決算	4,030
		【取組への課題】 ・読書教育関連事業が固定化してきており、新たな読書体験活動を深めていく必要がある。	H27 予算	3,624
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・読書週間を活用して、学校等と連携した新しい図書の普及啓発活動に取り組み、各学校への貸出を推進していく。現行の子ども映画会を四半期毎に実施する等、その時期にあった読書体験事業を実施する。	H27 決算	3,621
② 読書教育事業	図書ボランティアによる本の読み聞かせ会、おはなし会、人形劇公演、子ども映画会を開催し、子どもたちが読書の楽しさに気づききっかけをつくり、読書体験を深めるようにした。(延べ来場1,271人) また、学校図書館司書を対象としたスキルアップ研修会を3回開催し、学校における読書環境の整備を支援した。	【取組への課題】 ・読書教育関連事業が固定化してきており、新たな読書体験活動を深めていく必要がある。	H25 決算	0
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・読書週間を活用して、学校等と連携した新しい図書の普及啓発活動に取り組み、各学校への貸出を推進していく。現行の子ども映画会を四半期毎に実施する等、その時期にあった読書体験事業を実施する。	H26 決算	0
		【取組への課題】 ・読書教育関連事業が固定化してきており、新たな読書体験活動を深めていく必要がある。	H27 予算	0
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・読書週間を活用して、学校等と連携した新しい図書の普及啓発活動に取り組み、各学校への貸出を推進していく。現行の子ども映画会を四半期毎に実施する等、その時期にあった読書体験事業を実施する。	H27 決算	0
合 計			H25 決算	4,325
			H26 決算	4,030
			H27 予算	3,624
			H27 決算	3,621

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	スポーツ振興の充実						
現状と課題	スポーツイベントを中心に町民が気軽にスポーツを楽しめる機会を増やしていこうと試みている。少子高齢化の影響もあり、既存のスポーツ団体の活動が衰退傾向にあるので、スポーツ団体の活動の活性化が今後の大きな課題である。						
施策の情報整理	目指す成果	町民が身近なところで楽しみながらスポーツに慣れ親しんでいる。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成26年度	平成27年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標)	目標数値の説明
		スポーツ大会・軽スポーツ教室参加者数	7,422人 (H25)	7,450人	7,500人	7,650人	各種スポーツ大会・スポーツ教室の延べ参加者数
	達成度の理由	★★★	★★★	★★★	★★★	★★★	13,135 千円
		★★★	★★★	★★★	★★★	★★★	12,916 千円
	達成度の理由	<p>・スポーツ大会・軽スポーツ教室参加者数については、目標値の96.9%であった。</p> <p>【リバーサイドマラソン2,295人・サッカー大会1,500人・スポーツフェスタ410人・少年野球大会350人・軟式野球大会520人・ソフトバレーボール大会160人・硬式テニス大会360人等】</p> <p>・スポーツイベントを通じて、順天堂大学や、スポーツ推進員との連携が推進してきており、スポーツを通じた新たな取り組みへのベースが出来つつある。</p> <p>以上の理由により、総合的に「ほぼ達成」と判断した。</p>					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	<p>・体育施設者に関しては、H26年度の67,682人に対しH27年度は80,370人で増加している。要因としては、学校統合により栄東中・酒直小・北辺田小の体育館が日中でも利用可能であったことが挙げられる。</p> <p>(水緑:利用件数1,203件・16,209人/房総のむら:利用件数708件・14,511人/各体育館:利用件数2,889件・49,650人)</p>					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<p>・スポーツには興味はあるものの、なかなか体を動かす機会が少ない方が多いことが現状。</p> <p>・生活習慣病になる人の増加を軽減するために、特に運動する習慣が少ない40歳代～60歳代までの方を対象とした、スポーツ教室等の普及に努めなければならない。</p> <p>・トップアスリートを招聘し、スポーツの素晴らしさや楽しさを実感できるような事業を展開し、幼少期からスポーツにふれる機会を提供する。</p>						
住民との協働や他課の事業との連携	<p>・スポーツ推進委員・体育協会・住民活動団体・順天堂大学等各種団体と連携し各種の教室やスポーツ大会を開催を継続的に開催している。</p> <p>・健康増進・維持の観点から健康介護課や介護予防のために包括支援センターと連携・協力し、運動・スポーツの重要性の認識の向上に努めている。</p> <p>・さかえリバーサイドマラソンについては、各種スポーツ団体他、教育委員会関連団体をはじめ職員の協力により事業を実施している。</p>						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成27年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① スポーツ・レクリエーション交流事業	<p>●誰もがオリンピックを目指して～さかえスポーツフェスタ2015～【2,296千円】</p> <p>・ソフトテニス教室(60名参加)</p> <p>・サッカー教室(440名参加)</p> <p>・野球教室(20名参加)</p> <p>・バレーボール教室(80名参加)</p> <p>・体操教室(40名参加)</p> <p>※延べ640名参加、講師・スタッフ延べ68名参加</p> <p>●スポーツ推進委員が行う事業への支援</p> <p>・報酬【621千円】、郡スポーツ推進委員連絡協議会負担金【34千円】</p>	<p>【取組への課題】</p> <p>・新たな参加者の獲得に向け、目新しい種目や運営形態の検討を進め、参加者獲得に努める。</p> <p>・特に若年層へのアプローチを重点的に進める。</p> <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <p>・各種補助金を活用した事業展開を実施し、トップアスリートを招いて開催するスポーツフェスタのほか、健康増進・維持に向けたスポーツ活動の活性化を図る。</p> <p>また、スポーツを通じた地域の活性化を図る。</p>	H25 決算	696
			H26 決算	4,270
			H27 予算	2,951
			H27 決算	2,951
② スポーツ競技力向上事業	<p>・小学生大相撲トーナメントの実施(参加者31名)【5千円】</p> <p>・千賀ノ浦部屋相撲合宿時にふれあい相撲教室を実施(参加者29名)</p> <p>・町長杯ソフトバレーボール大会の実施(参加15チーム・85名)</p> <p>・町長杯サッカー大会の実施(参加23チーム・400名)</p> <p>・体育協会への活動支援【補助金1,949千円】</p> <p>・郡体育協会負担金【284千円】</p> <p>・郡市民体育大会出場選手協力依頼(選手出場241名)</p> <p>・郡市民体育大会ソフトボール競技開催【61千円】</p>	<p>【取組への課題】</p> <p>・体育協会各専門部の人数が減少傾向にあり、新たな人材育成とスポーツ無関心層へのアプローチをどうするか等を検討していかなければならない。</p> <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <p>・さかえリバーサイドマラソンをはじめとする各種スポーツ大会への参加者の増加策として、多様なメディアを活用したPR活動を実施する。</p> <p>・体育協会各専門部の活動支援を積極的に行うと同時に、スポーツを通じた地域連携を図りスポーツによる地域の活性化につなげる。</p>	H25 決算	4,078
			H26 決算	1,972
			H27 予算	2,028
			H27 決算	2,028
③ 生涯スポーツ環境整備事業	<p>・町民プール一般開放委託【3,181千円】</p> <p>・ふれあい公園相撲場整備工事【503千円】</p> <p>・体育施設管理【4,253千円】</p>	<p>【取組への課題】</p> <p>・体育施設の老朽化に伴う、点検等の実施と計画的な修繕を行う必要がある。</p> <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <p>・町民プール及び町民体育館等の体育施設の適正な管理のため、点検・整備を定期的に実施し修繕の優先順位を決めていく。</p> <p>・早急に必要な修繕に対しては、随時対応する。</p>	H25 決算	8,812
			H26 決算	7,761
			H27 予算	8,156
			H27 決算	7,937
合計			H25 決算	13,586
			H26 決算	14,003
			H27 予算	13,135
			H27 決算	12,916

学識経験者の意見（全体を通しての感想）

- ・ 中心になってやってくれている方が、高齢化して先細りの状態がこの内容でも感じられるが、若い人達がスポーツをやらないわけではない。関心がないわけではないと思うが、町として取り組む内容と若い人たちなどが求めているものとのギャップがあるのではないかと全体を見て感じた。

学識経験者の意見（基本方針（2）について）

【施策名：生涯学習環境の充実】

- ・ いきいき塾さかえ講座が平均10人以下というのはもったいないと思う。昔は子ども会が非常に盛んで、地域で子ども会を結成してレクリエーションでバスで行ったりまでしていたが、今はほとんどないと聞いて、地域で育てるには子ども会は重要な役割を果たすと思うが、それに対する指導は教育委員会はどんな取り組みをしているのか。地元にかかせっきりなのか、何らかの手立てはしているがなかなか成立していかないのか聞きたい。
- ・ 子ども110番活動の推進があるが、むしろ現状では徘徊で年寄110番のほうがいいのではないかと思うぐらいである。子どもや徘徊老人を含めた地域見守り110番とかでもいいのではないかと思う。自治会との連携や声かけ運動をやるなど、地域とのコミュニケーションが保たれるような事業だてがあると、教育や地域の活性化にもなるし良いのではないか。

【施策名：生涯学習資料の充実】

- ・ 図書室の利用人数が人口よりも少ない、一人1回行っていないということはとても少ないことだと感じた。
- ・ 読書教育事業で、子ども映画会もいいが、例えば大人映画会や女性映画会などもあると良い。今は個々に楽しむ趣味の傾向があるので、みんなで見る映画会もいいが自分の好きなものを注文して見れるようなものがあると、図書室に足を運ぶきっかけとなるのではないか。図書室に足を運んでもらえるようなものを入れていくと良いのでは。図書スペースの拡充は物理的に無理だと思うので、例えばiPadを置いて電子書籍閲覧を増やし、蔵書の不足分をカバーして、みんなが見たいような本を置くことはどうか。図書室の面積が少ない分、機材の工夫でカバーしたらいいのではないか。足を運んでもらえるような図書室という機能を幅広く活用できるものにしたらいいと思う。

【施策名：スポーツ振興事業の充実】

- ・ スポーツ大会・軽スポーツ教室参加者数が目標値の96.9%ということなので、天気によって参加者数も変わってくると思うので、これも星3でいいと思う。
- ・ 2020年の東京オリンピックでスポーツは教育という観点からとらえていこうという動きがあると思うが、スポーツ教育という観点から学校教育が教育現場でどう取り組んでいくのか知りたい。それが生涯学習とどう関係づけていくのか。
- ・ ロッククライミングなども事業に入れるなど、若者たちが関心を持つようなものを、アンケートなどをとって町民の声を聞いてみるなどいいのではないかと思う。
- ・ 産業界は国と一緒にあって、健康経営に取り組んでいる。民間企業の社員の福利厚生

としての健康づくりのためにそういう人たちを巻き込むことが大事。経営にとって健康とは重要な経営の要素という認識を経営者の方にだいぶ浸透されてきている。せっかく企業が進出しているわけなので、健康づくりとリンクする形で取り組むといいのではないか。社員の家族も巻き込めると思うので。経営者と社員と行政と地域住民で一体となった形で事業づくりをしていくと、地域ぐるみの事業になるのではないかと思う。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

生涯学習課より

【施策名：生涯学習環境の充実】

- ・ 現在、町子ども会育成連絡協議会に加入している地区子ども会は1地区のみとなっており、子ども会としての活動が殆んどありません。旧酒直小学校や北辺田小学校を含む各小学校地区にはふれあい推進員がいて、キャンプや盆踊り、まつり、体験教室を通して子どもの見守りをしています。子ども会とは別の形での対応を考えていきます。
- ・ こども110番活動については、登録世帯が485戸ありますが、小中学校の合併により、通学路の変更や通学バスの運行もあり、こども110番の登録の見直しをしていきます。
- ・ 地域では、自治会単位やNPO等の住民活動団体が地域の見守りを定期的に行っている地区があります。生涯学習課単独では、それらと連携し「地域の見守り110番」に結びつけることは難しく、福祉部署や防犯・防災部署など、行政全体として「安心・安全に暮らせるまちづくり」の中で、どのようにしていくかを検討していくことが必要です。

【施策名：生涯学習資料の充実】

- ・ 図書室の利用が少ない、16歳から20歳代の利用促進のため、ヤングアダルト本を増書していきます。
- ・ 電子書籍の導入に関しては、財源の問題もあり、今後検討していきます。
大人向けの映画会は、文化芸術発信拠点の充実の施策の文化芸術事業で名作映画の上映会を実施しています。

【施策名：スポーツ振興事業の充実】

- ・ 2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、町では「さかえスポーツフェスタ～誰もがオリンピックを目指して～」と題し、小・中学生を対象としてトップアスリートを招きスポーツの楽しさやアスリートの身体能力の凄さなどを実感・体感させることでスポーツへの関心を高める取り組みを実施しています。
また、健康面への不安の改善と年々膨らむ医療費の削減を目指し、健康介護課と連携した事業を展開し、スポーツ推進員などが町内各地域に積極的に出向き地域住民を巻き込んで、スポーツと運動による健康づくりに取り組みます。
- ・ 軽スポーツ教室などの取組みの際に、若者層や働き盛りの世代に興味を待ってもらい、参加してもらう事は、現状の大きな課題であり、町民アンケートなどを取りながら、種目を決定することも必要と考えています。
- ・ 「民間企業の社員の福利厚生としての健康づくりのために、民間企業を巻き込む」ことに関しては、ご提案のとおり、全町上げて健康づくりに取り組むためには、必要なことであることから、事業を計画する際には、そういった観点を十分意識しながら取り組んでいきます。

基本方針（3）

地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財の保護・伝承・活用を図り、個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を図ります。

【施策名】

- ・文化芸術発信拠点の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 9
- ・歴史資料の公開・活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3 0
- ・文化財保護の拡充・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3 1

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3 2

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・・・ P 3 3



施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		文化芸術発信拠点の充実					
現状と課題		<ul style="list-style-type: none"> ふれあいプラザさかえの経年経過による施設の不具合が多く発生しており、その解消が望まれている。 各サークル等、文化芸術団体の会員の高齢化や会員の減少により、活動の減少が発生しており、活動支援や新規団体の育成が必要である。 社会環境の変化により、余暇時間を利用した個人の趣味や学習活動が増加し、ふれあいプラザさかえに来れば、いつでも文化芸術の情報が入手でき、また多くの文化芸術に触れられる機会が望まれている。 					
施策の情報整理	目指す成果	文化芸術に触れたり、学習意欲を刺激しあう機会の提供により、町民個々がスキルアップし、心豊かにいきいきと生活している。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成26年度	平成27年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		ふれあいプラザさかえの利用人数	199,632人 (H25)	203,600人	207,600人	220,200人	ふれあいプラザさかえの年間利用人数
	施策全体の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		55,850 千円	52,912 千円
	達成度の理由	<ul style="list-style-type: none"> H27年度のふれあいプラザさかえの利用人数については、目標値に達しなかったが、目標値の97.4%であった。 施設のハード面については、要修繕箇所が多いものの、臨時的対応等により、利用できない状況は回避出来ている。 懸案であった、文化ホールの舞台関係操作の民間委託を平成27年度末から実施出来た。 以上の理由により、総合的に、「ほぼ達成」と判断した。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	ふれあいセンターの貸し部屋は利用率が前年度の71.1%から71.5%と0.4%上昇した。					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	各サークル等、文化芸術団体の会員の高齢化や個人の趣味や学習活動が多岐にわたり、団体会員の確保や活動の維持、及び文化ホールでの文化芸術事業の選択が課題となる。						
住民との協働や他課の事業との連携	ふれあいプラザさかえ施設管理において、住民団体やふれあいプラザさかえ利用サークルが敷地内の花壇整備や除草・剪定を実施した。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成27年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① ふれあいプラザさかえ施設管理・運営事業	ふれあいプラザさかえを年間293日開館し、管理・運営を実施した。 ・施設総合管理や設備保守点検、特殊建築物定期報告調査等を委託 ・光熱水費(電気・ガス・上下水道)の支払い ・窓口業務の日々職員への指導 ・平成28年4月1日～平成31年3月31日の3年間、文化ホール業務委託(舞台・音響・照明のスポット委託)の入札、契約。平成27年度2月～3月は委託業者との引継ぎ。	【取組への課題】 ・限られた予算内で施設管理が出来るように努めて行きたいが、経年経過による消耗のために突発的な消耗品が発生したりしている。また、光熱水費が不足し、補正予算で対応している。	H25 決算	51,418
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・施設利用者にとって、安全で安心な施設の維持・管理及び施設運営を努めて行く。 ・支出の半数を占める光熱水費については、節電や節水を利用者へ呼びかけるようにし、支出を軽減して行く。	H26 決算	54,101
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・施設利用者にとって、安全で安心な施設の維持・管理及び施設運営を努めて行く。	H27 予算	53,638
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・施設利用者にとって、安全で安心な施設の維持・管理及び施設運営を努めて行く。	H27 決算	50,702
② ふれあいプラザ施設改修事業	次のとおり施設や設備の修繕を実施した。 ・ふれあいセンター、悠遊亭空調設備(冷却水ポンプ漏水、冷温水器)の修繕 ・文化ホール連絡通路屋根雨漏り補修 ・文化ホールモニターカメラシステム、照明、天井の修繕 ・消防設備(誘導灯・煙感知器)の修繕 ・電気陶芸窯(熱線)の修繕	【取組への課題】 ・経年経過による設備の故障が多く発生しており、応急的な対応に留まり、施設の不具合の全ての修繕が出来なかった。	H25 決算	26,394
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・より利便性の向上と安全性の確保に努め、施設・設備の不具合の解消を図る。 ・計画的な改修を実施して行く。	H26 決算	19,660
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・より利便性の向上と安全性の確保に努め、施設・設備の不具合の解消を図る。	H27 予算	2,203
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・より利便性の向上と安全性の確保に努め、施設・設備の不具合の解消を図る。	H27 決算	2,201
③ 文化芸術振興事業	・高校・大学の協力を得てのコンサートの開催、文化ホールピアノの一般開放、映画「風と共に去りぬ」を上映した。 ・貸館事業による文化事業を展開。	【取組への課題】 ・町民がどのような文化芸術に興味があるのか、把握出来なかった。	H25 決算	0
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・27年度に実施した映画会等、継続実施できるものを検討し、開催する。 ・基金を維持しながらの、新たな催し物などの開催が必要。	H26 決算	0
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・27年度に実施した映画会等、継続実施できるものを検討し、開催する。	H27 予算	0
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・27年度に実施した映画会等、継続実施できるものを検討し、開催する。	H27 決算	0
④ 文化芸術団体支援事業	・サークル団体等の日頃の活動成果、発表する機会として栄町ふれあい文化祭を実施。 ・ふれあいセンター1階展示ロビーにおいて展示ケースやミニギャラリーによるサークルの案内、作品展示を随時展開している。	【取組への課題】 ・文化祭への参加団体は、一般が3団体減り、サークルが前年より1団体増え、39団体だった。小・中学生の出演(合唱等)が増えたため、文化ホール観客数が1603人の増となった。 ・一部の団体では、会員の高齢化や会員の確保に苦慮しており、利用サークル連絡会は年度末で4団体が減少した。	H25 決算	9
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・栄町ふれあい文化祭やサークル紹介スペース、広報紙等を活用し、活動成果の発表や団体の活動内容を町民に紹介して行く。	H26 予算	9
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・栄町ふれあい文化祭やサークル紹介スペース、広報紙等を活用し、活動成果の発表や団体の活動内容を町民に紹介して行く。	H27 予算	9
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・栄町ふれあい文化祭やサークル紹介スペース、広報紙等を活用し、活動成果の発表や団体の活動内容を町民に紹介して行く。	H27 決算	9
合計			H25 決算	77,821
			H26 予算	73,770
			H27 予算	55,850
			H27 決算	52,912

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		歴史資料の公開・活用					
現状と課題		町史編さんについては刊行事業が凍結されており、緊急的課題に係る調査を若干進めている状況である。このため当面は、これまでの調査成果を簡便平易な方法で公表して普及を図る。また、「公文書等の管理に関する法律」施行に係る歴史公文書等の収集・整理・公開体制の整備について進捗させることで、町民等による地域史料の閲覧・利用について利便性を高める。					
施策の情報整理	目指す成果	本町の歴史、文化遺産等を史実に基づき、調査、収集及び記録し、公開することにより、町民の愛郷心を高揚させ、永く後世に伝えられている。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成26年度	平成27年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		歴史公文書の整理保存作業	8% (H25)	10%	15%	30%	
	施策全体の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		209 千円	132 千円
	達成度の理由	<ul style="list-style-type: none"> 歴史公文書の整理保存について、新たに現状を再把握したうえで、資料全体から見た整理保存作業済の部分が目標値の15%に達している。 多くの史料が未整理の状況である。 以上の理由により、総合的に「ほぼ達成」と判断した。 					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> 栄町史刊行に係る調査データを利活用して、町史編さん委員会の協力により広報誌に記事をほぼ毎月掲載することができ、栄町の歴史・文化を紹介できた。 					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<ul style="list-style-type: none"> 栄町史編さん委員会及び専門委員の高齢化等に係る退任が進んでいることから、今までの成果の還元である『栄町史』の刊行について進捗させる必要がある。 「公文書等の管理に関する法律」施行に係る歴史公文書等の収集・整理・公開体制の整備について進捗させることで、町民等による地域史料の閲覧・利用について利便性を高める。 						
住民との協働や他課の事業との連携	<ul style="list-style-type: none"> 栄町古文書学会の会員に『栄町史史料編』(近世)への掲載予定史料に係る解読筆耕作業を継続的にお願いしている。 会員の生涯学習活動を通して町民に情報が発信され、郷土の歴史の普及となっている。 栄町文化財サポーター登録者に、新たに発見された地域史料(襖などの下張文書)の整理保存作業を、継続的に実施していただいている。 						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成27年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費
① 町史編さん事業	<ul style="list-style-type: none"> これまでの調査成果を町史編さん委員会の協力を得て毎月広報誌を通して公表した 近現代部会の専門委員の協力を得、町制施行60周年記念「栄町史公開講演会」を開催し好評を得た。 	【取組への課題】 ・広報誌への掲載について、スペースが限られていることから原稿量の調整が難しい。	H25 決算 98
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・時宜を得たテーマや歴史講座の参加者、文化財サポーター登録者などから興味のあるテーマを聞き取り、記事に反映させる。	H26 決算 103
			H27 予算 178
			H27 決算 102
② 記録史料の保存・公開事業	<ul style="list-style-type: none"> 地域史料(古文書等)の整理保存作業を文化財サポーターとの協働で実施した。 歴史公文書の整理保存作業は議会関係(栄町役場分:昭和30年)について終了することができた。 歴史公文書の普及を図るため、歴史講座(記録遺産編)「歴史公文書が語る栄町誕生の歩み」(3回)を開催し好評を得た。 	【取組への課題】 ・地域史料の整理保存は、協働作業で着実に進捗しているが、歴史公文書の整理保存作業は、作業員、時間の確保が難しく進捗が遅い。 ・史料整理に関わる、スタッフ等の人材確保と計画的な整理保存作業が必要である。	H25 決算 19
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・歴史公文書の整理保存作業日を固定化して作業員・作業時間を確保し、公文書管理法に基づく例規等の整備を進め、歴史公文書のライフサイクルを確立させる。	H26 決算 32
			H27 予算 31
			H27 決算 30
合計			H25 決算 117
			H26 決算 135
			H27 予算 209
			H27 決算 132

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		文化財保護の拡充					
現状と課題		<ul style="list-style-type: none"> ・岩屋古墳周辺の指定地に係る公有化は膠着化して動きがない。しかしながら国指定史跡候補地内における未指定地の追加指定を進捗させて早期に保全、保護について確立させる必要がある。また、岩屋古墳の基礎的調査の終了に伴う報告書の作成を進め、史跡整備計画に反映させる必要がある。 ・町内外へ国史跡などの文化財の活用、普及や環境整備を図るためには栄町文化財サポーターとの協力が不可欠なことから登録者を増加させる必要がある。 					
施策の情報整理	目指す成果	文化財が持っている重要性への理解が深まり、文化財の保護への意識が高まっている。 また、国史跡龍角寺古墳群・岩屋古墳の公有化が図られ、その保全・活用のための整備計画策定に必要な岩屋古墳の修復や主要な古墳等の調査が実施され、その成果が活用されている。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成26年度	平成27年度	平成30年度 <small>(教育振興基本計画目標値)</small>	目標数値の説明
		発掘調査の成果や普及活動等を行う栄町文化財サポーター数	26人 (H26)	26人	31人	46人	登録人数
	施策全体の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		7,561 千円	5,232 千円
	達成度の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財サポーター登録者を中心とした養成講座(公開3回)を開催して20名の参加者を得た。 ・研修を実施し関心を深め、新規登録者5名を獲得した。 ・岩屋古墳の発掘調査においても、報告書の一定のとりまとめが完了した。 ・財政的問題から、「保存・活用計画」策定の目的が立っていない。 以上の理由により、総合的に、「ほぼ達成」と判断した。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・龍角寺の銅造薬師如来坐像(国重文)が、奈良国立博物館の特別展「白鳳」の出展し、全国に周知することができた。 ・岩屋古墳発掘調査報告書の作成業務委託事業(公益法人印旛郡市文化財センター)に係る進捗があった。 					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・岩屋古墳の発掘調査データから方墳として現在規模の確定している遺跡としては、日本一となったことから見学者の増加が見込まれるため表示板やガイドなどの対応が必要となっている。 ・岩屋古墳エリアの公有化の進捗に伴い、史跡用地の環境整備(除草作業)が課題となっている。 						
住民との協働や他課の事業との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財サポーター制度を拡充させて、教育委員会等が行う文化財に関するイベント等への協力や観光客等の来町者、見学者の案内・説明の協力。また、史跡等を保全するための環境整備・清掃作業への協力を進捗させる。 						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成27年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費
① 文化財の調査・保護事業	<ul style="list-style-type: none"> ・開発に伴う記録保存は、その都度の事業者等と連絡、協議、調整を行い確実に処理した。 ・岩屋古墳の基礎的発掘調査の終了に伴う報告書の作成を実施した。 ・発掘調査の成果や普及活動等を行う栄町文化財サポーター登録者の活動支援のため養成講座などを開催した。 	【取組への課題】 ・岩屋古墳の基礎的データの収集が一段落したことから、発掘調査報告書の刊行に努める。また、早稲田大学の学術調査の進捗を踏まえて龍角寺境内及び瓦窯趾出土の遺物の再整理を図る必要がある。	H25 決算 7,074
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・岩屋古墳の発掘調査報告書作成については、龍角寺古墳群調査整備委員会の指導及び公益法人印旛郡市文化財センターの協力を得て進捗させる。 ・龍角寺発掘調査成果の再整理作業は国庫補助事業を活用したい。	H26 決算 5,428
			H27 予算 5,332
			H27 決算 5,152
② 龍角寺古墳群保全・活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人栄町観光協会、千葉県立房総のむらなどに後援・協力し、文化財紀行や黄泉国探検ツアー、さらに小学校社会科授業の現地見学に対応し、国史跡岩屋古墳の普及を図った。 ・岩屋古墳及び浅間山古墳について栄町文化財サポーターの協力により定期的な環境整備作業を行い保全に努めた。 	【取組への課題】 ・岩屋古墳に加え、もう一方の核となる浅間山古墳の環境整備作業実施していく必要がある。 ・保存活用計画策定が依然見通しが立たない状況下で、異なった切り口での活用を行わざるを得ない状況。 ・サポーター協力による、史跡周辺の環境整備については、定期的な作業を行っているものの、サポーターが概ね高齢者であることから、新たな人材確保が必須。	H25 決算 1,589
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・房総のむらとの連携を進め浅間山古墳の重要性を普及させることで、地元自治会や栄町文化財サポーターなどの理解を得て環境整備作業の充実を図る。	H26 決算 89
			H27 予算 2,229
			H27 決算 80
合計			H25 決算 8,663
			H26 決算 5,517
			H27 予算 7,561
			H27 決算 5,232

学識経験者の意見（基本方針（3）について）

【施策名：文化芸術発信拠点の充実】

- ・ふれあいプラザさかえの経年経過は毎年のように出ている、ほとんどの事業費がそちらに費やされてしまって、実際の事業にはなかなか向かないというのが現実だと思うが、貸館業務もしていて、71.1%の利用率でどの位の収入があるのか。
- ・舞台関係の操作だけ民間委託したということだが、この舞台は稼働率はあまり良くないと思うが。
- ・管理運営まで教育委員会が担っていることは、大変である。特に赤字が続いていくと経営的にこのままでいくと行き詰るのではないかと。真剣になってどうやっていくのか、行政と一体となって早急に考える時期ではないか。単に光熱費だけの問題でなく、施設を今後どう運営していくのかが問われるまさに喫緊の大きな課題である。
- ・文化芸術振興事業は、人が来るのはそこに何かあるというワクワク感がなければいけないので、近隣の人たちも来てくれるような魅力ある、人気ある注目あるイベントを誘致する方策を考えるべき。イベント会社や広告関係などの業界の方に相談してプロジェクトチームを作ってやるなどしてはどうか。
- ・企業でサークルがあると思うので、栄町だけでなく、近隣の企業にも声をかけて、働きかけの対象を広げてみるなど、工夫するのもいいのではないかと。

【施策名：歴史資料の公開・活用】

- ・目標の15%というのは、説明の中で総量がはっきりしないということだが、総量が決まらずに15%は何をどのように計算されたのか。難しいと思うが。
- ・文化芸術に重きをおいている栄町というのを、これだけの自然の資源があるわけだから、それを生かして文化芸術の町である栄町という形で、栄町を売り出す絶好のPRの一つの材料として、歴史資料の公開・活用や文化財保護などを前向きに活用していったらいいのではないかと。

【施策名：文化財保護の拡充】

- ・予算的にはあまり多くない内容だが、例えば会議や実際行ったことはどのくらいやったのかなど、具体的な数値が入っていない。龍角寺古墳群の保全については、保存活用計画を策定しなければいけない、それには高額な予算が必要になるようだが、栄町にはいい文化遺産があってもそれがうまく活用されないのは残念。どうにかいい方向で進めてもらいたい。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

生涯学習課より

【施策名：文化芸術発信拠点の充実】

- ・ふれあいプラザさかえ施設の年間使用料収入は、約1千万円です。なお、町や学校事業での利用は減免しており、同じく約1千万円分位あります。
平成27年度より、文化ホールの舞台・音響・照明の技術者をスポット委託し、高度な技術の提供による利用者の満足度の向上、人件費の削減をしています。今後は委託業者の提案を取り入れた事業展開も考えていきます。
- ・施設の管理・運営に関しては、施設の指定管理等、全部の管理運営委託するためには、老朽化した設備の修繕が必要となります。今後、公共施設等総合管理計画と整合を図り大規模改修計画を策定していきます。
- ・人気のあるイベント誘致については、基金を減らせないという資金的な制約や、ホールのキャパシティの中で、有効かつ採算性の取れる事業を誘致・実施することは難しい状況です。また、イベント会社や広告会社などとのプロジェクトチームに関しては、PRも含めた事業を展開の可能性について確認していき、ふれあいセンターや文化ホールの民間企業へのPR及び営業活動は、今後実施していきたいと思えます。

【施策名：歴史資料の公開・活用】

- ・自治組織等の管理する文書などの整理保存作業を文化財サポーターとの協働により、継続的に進捗させ、かつ、歴史公文書等の収集・整理・公開体制の整備を図ることで、町民等による地域史料の閲覧・利用について、利便性を高めます。
- ・歴史公文書の総量の把握を優先しながら整理保存作業を進捗させます。
- ・地域史料の活用については町史編さん事業の調査記録を広報誌などで公開し、普及に努めます。また、栄町古文書学習会などの活動を支援することで活用を推進させます。

【施策名：文化財保護の拡充】

- ・龍角寺古墳群について主要な古墳の調査を実施し、関係機関と協議を行い、保全活用に関する計画の策定を進めます。また、町内に所在する歴史的文化遺産等の保全を進めます。かつ、普及活動等を協働する栄町文化財サポーターの活動を支援します。
- ・岩屋古墳を活用する為、調査報告書を作成します。
- ・房総のむら、ウォーキングの会などと協働して、文化財紀行などを企画して指定文化財の普及と集客を図ります。

参 考

○文化財審議会 1回

○国史跡等案内実績 1,059人

月日	行事名	場所	
5月6日	黄泉国探検ツアー(房総のむら)	岩屋・龍角寺古墳群	24
5月9日	ドラム遺産紀行(栄町観光協会)	龍角寺	35
5月14日	校外学習(布鎌小)	岩屋	18
6月17日	明治大学博物館友の会	岩屋	28
8月23日	黄泉国探検ツアー(房総のむら)	岩屋・龍角寺古墳群	25
11月3日	房総のむらと秋の里山・岩屋古墳を訪ねるハイキング(企画政策課)	岩屋・龍角寺	628
11月23日	ユニセフ・ラヴウォーク	岩屋・龍角寺	183
11月29日	黄泉国探検ツアー(房総のむら)	岩屋・龍角寺古墳群	57
2月20日	なりた道を歩こう(のら里くら里健康ウォーキングの会)	岩屋	40
2月27日	黄泉国探検ツアー(房総のむら)	岩屋・龍角寺古墳群	21

* 直接案内した実績

総人数 1,059

5 【本町教育行政が取組む方向について】

教育長より

今年度からの「栄町教育委員会の点検・評価報告書」については、平成27年3月に「栄町教育振興基本計画」を策定し、町長主宰による「総合教育会議」が開催され、「栄町教育振興基本計画」に定めた「教育理念」及び「基本方針」をもって大綱を策定いたしました。

その大綱に基づきこれからの栄町の教育が進むべき方向性を示したものを基本理念として、「豊かな心と生きがいを育み、歴史と文化が息づくまち」をつくり《夢に向かって挑戦する栄っこ》を育成することを目指し取り組んでまいりました。

そこで栄町教育を具現化するために、3つの基本方針を掲げ、12の施策を展開いたしました。各施策とも昨年度実施した事業を見直すとともに、ご指摘・ご指導をいただいたことをもとに改善すべき点を明らかにし取り組んでまいりました。

今回の点検・評価につきましては、教育委員会（事務局）として、事業のスポット的な評価ではなく事業全体での取り組みとその成果・課題について自己点検・総合評価し、報告書としてまとめさせて頂きました。

その結果、平成27年度の実績・成果については、学識経験者の方からは、厳しい財政事情のなかでの事業展開についての取り組む姿勢や手法、そしてその成果や課題等について事細かく的確なご指導・ご指摘・ご意見等頂きました。

課題としてご指摘・ご指導を受けた事項につきましては真摯に受け止め、更なる充実・発展のため努力していかねばならないと考えております。

そのためにも、教育委員会職員が心を一つにして、「ひとが元気・まちが元気 みんなでつくる水と緑のふるさと さかえ」の町づくりのため、そして将来を担う子どもたちが、「栄町で育ってよかった」「栄町に住み続けよう」と思えるような豊かな教育施策の実現と志の高い教育行政の推進に努めてまいり所存です。